

国際化市民フォーラム in TOKYO



実施報告書

平成23年2月19日（土）10:00～16:00
JICA地球ひろば

主	催	東京都国際交流委員会	国際交流・協力 TOKYO 連絡会
共	催	日本国際連合協会東京都本部	
協	賛	JICA地球ひろば	
後	援	東京都	

目 次

I 事業概要	1
1 開催概要	1
2 開催プログラム	2
II 実施概要	4
第1分科会	
日本語が母語でない人に「わかる日本語」で情報を	4
《資料》	10
第2分科会	
ブータンから学ぶ幸せな地域づくり	22
《資料》	32
第3分科会	
地域における外国人親子の支援	48
《資料》	52
第4分科会	
「わかる日本語」のつくり方	68
《資料》	73
III 国際化市民フォーラム in TOKYO アンケート結果	76

I 事業概要

1 開催概要

(1) 目的

外国人登録者数が約 42 万人で総人口の 3%を占める東京。グローバル化する東京が抱える問題点や課題、国際協力のあり方などを都民の皆さまとともに考え、国際化への理解と認識を深める機会とします。

(2) 実施方法

分科会方式 (4 分科会)

(3) 内容

- ① 日本語が母語でない人に「わかる日本語」で情報を
- ② ブータンから学ぶ幸せな地域づくり
- ③ 地域における外国人親子の支援
- ④ 「わかる日本語」のつくり方

(4) 日 時 平成 23 年 2 月 19 日(土) 10:00~16:00

(5) 場 所 JICA 地球ひろば 渋谷区広尾 4-2-24

(6) 募集人員 各分科会 30~70 人

(7) 参 加 費 無 料

(8) 主 催 東京都国際交流委員会
国際交流・協力 TOKYO 連絡会

(9) 共 催 日本国際連合協会東京都本部

(10) 協 賛 JICA 地球ひろば

(11) 後 援 東京都

国際化 市民フォーラム inTOKYO



開催日時 平成23年 **2月19日** 
10:00~16:00

開催場所 **JICA地球ひろば**
(東京都渋谷区広尾4-2-24)

受付 **9:30から**

定員 **各分科会 30~70名**

外国人登録者数が約42万人で総人口の3%を占める東京。グローバル化する東京が抱える問題点や課題、国際協力のあり方などを都民の皆さまとともに考え、国際化への理解と認識を深める機会とします。

午前 10:00~12:30

セミナールーム 301

1

日本語が母語でない人に「わかる日本語」で情報を

日本語が母語でない方々の中には緊急時の情報や行政・学校など公的な機関からの情報はなかなか理解ができず、生活上の問題を抱えている方々が多くおられるのが現実です。

最近「やさしい日本語」で情報を発信する試みが行われています。この分科会では、「やさしい日本語」を「わかる日本語」と表現して、「わかる日本語」を必要とする背景や実際に行っている事例の報告を行い、問題点を探り、参加者の皆さまと考えていきます。

ファシリテーター

寺嶋誠一郎 中野区国際交流協会常務理事

パネリスト

梶村 勝利 東京日本語ボランティア・ネットワーク代表
中山真理子 中野区国際交流協会専門員 亜細亜大学講師

小野木 溪 元 慶應義塾大学SFC政策研究支援機構
近藤 怜子 『進む内なる国際化～「やさしい日本語」を活かした地域協働の実現～』
三田 真未 グループ





2

ブータンから学ぶ幸せな地域づくり

ヒマラヤの仏教国ブータンで提唱されたGNH（国民総幸福量）とは、国民の精神的な幸福や豊かさを追求する概念です。ブータンにおいて幸せな国づくりに協力しているJICAの事例や実際の現地の状況、GNHの哲学を政策にも取り入れている荒川区の事例発表を通して、地域コミュニティにおける人とのつながりや助け合い、住民一人ひとりの幸せについて考えます。＜企画：JICA地球ひろば＞

ファシリテーター

山崎 唯司 JICA地球ひろば 市民参加協力アドバイザー

パネリスト

北川 嘉昭 荒川区総務企画部長
田儀 耕司 公益社団法人日本環境教育フォーラム 国際事業部長
津川 智明 JICA専門家（ブータン・地方行政）
鈴木 麻美 青年海外協力隊帰国隊員（ブータン・日本語教師）

午後 13:30～16:00



3

地域における外国人親子の支援

現在、都内には多くの外国人親子が暮らしていますが、育児や子どもの教育について誰にも相談することができず、地域で孤立している方も少なくありません。そこで、地域の外国人の「親子、子育て、家庭、教育」等の支援をしている実践者から最新の状況を報告いただくとともに、参加者の皆さまとこれらの問題点と今後の課題を探ります。

ファシリテーター

川村千鶴子 大東文化大学教授

パネリスト

荒明美奈子 町田国際交流センター 日本語支援ボランティア
石原 弘子 多言語育児情報誌を作る会 代表者
善元 幸夫 日本語学級研究会 元大久保小学校教諭

4

「わかる日本語」の作り方

午前中の分科会での議論を踏まえて、「わかる日本語」とはどのようなものをワークショップ形式で実際に体験します。簡単な説明を行った後、行政等から出た災害情報や生活に必要な情報を取り上げ、ほとんどの日本語が母語でない方々に「わかる」日本語に翻訳します。さらに、外国人協力者に読んでもらい、できた文が実際に「わかる」かを検証します。

司会

大友 正弘 一般財団法人港区国際交流協会常務理事

講師

中山真理子 中野区国際交流協会専門員・亜細亜大学講師

外国人協力者

中野区国際交流協会 日本語クラス学習者 3名

Ⅱ 実施概要

分科会 1

- テーマ 日本語が母語でない人に「わかる日本語」で情報を
- ねらい 日本語が母語でない方々の中には緊急時の情報や行政・学校など公的な機関からの情報はなかなか理解できず、生活上の問題を抱えている方々が多くおられるのが現実です。最近「やさしい日本語」で情報を発信する試みが行われています。この分科会では、「やさしい日本語」を「わかる日本語」と表現して、「わかる日本語」を必要とする背景や実際に行っている事例の報告を行い、問題点を探り、参加者の皆さまで考えてきます。
- ファシリテーター 寺嶋誠一郎 （中野区国際交流協会常務理事）
- パネリスト 梶村 勝利 （東京日本語ボランティア・ネットワーク代表）
中山真理子 （中野区国際交流協会専門員 亜細亜大学講師）
小野木 溪
近藤 怜子 （元 慶應義塾大学 SFC 政策研究支援機構『進む内なる国際化～
三田 真末 「やさしい日本語」を活かした地域協働の実現～」グループ）
- 参加者数 55名

（１）梶村 勝利さん

（東京日本語ボランティア・ネットワーク 代表）

◇日本語ボランティアのひとりとして

日本には日本語が母語でない人は外国籍の人だけでなく、日本人と結婚した人もいます。在住している目的、期間、家族構成、使っている言語、読む・書く・話す日本語のレベルはさまざまである。

情報伝達は、伝えるべき必要な情報が的確に伝わっているか、それらの情報が必要な人にとって入手しやすいか、内容がわかりやすいか、それらの情報によって行動に移せるかが重

要である。外国人にとっての情報源は同国人同士のネットワークの口コミだったり、母国語の情報誌だったりする。

「やさしい日本語」が使われるようになったのは1995年の阪神・淡路大震災のときの生活支援がきっかけになった。

役所や学校からの通知がわかりにくい、病院や公共施設の質問書や書類がわかりにくいなどの問題があった。

非常時の緊急情報や生活ガイドにおいて多言語化が必要であるが、言語数には限界がある。



インターネットや広報紙を調べると行政情報の多言語化は多岐にわたるが、そのほとんどは3言語またはルビふり日本語によるもので、自動翻訳を使ったものも多くなった。外国人が理解するには日本語の文章が難しい。

公用文は不要な表現が多く、わかりにくい。わかりやすくするためには、簡潔であること、趣旨が明確であること、具体的であることが必要である。

最近ようやく行政情報をわかりやすく表現していこうとする動きが出てきた。

都内には240余りのボランティアの日本語教室があり、日本語を学びたい人達に学習支援をしているが、「やさしい日本語」のレベルをどこに設定するかが課題である。

日本語能力検定のレベルにはN5～N1があり、N4では基本的な文法と漢字300字、語彙1500語を修得程度で、300時間の学習時間を必要とする。N5では初歩的な文法と漢字100字、語彙800語で、150時間の学習を必要とする。ただし、学習時間は連続して行った場合で、現実にはその数倍必要である。

東京日本語ボランティア・ネットワーク（TNVN）では「わかる日本語」研究会をスタートさせて調査・検討を行っている。

最終目標は外国人住民が地域住民として生活できることなので、日本人とのコミュニケーション手段として「わかる日本語」は有効である。

（2）中山 真理子さん

（中野区国際交流協会専門員 亜細亜大学講師）

◇日本語が母語でない人に『わかる日本語』で情報を

情報伝達の条件とは、正確に・端的に・わかりやすく・記憶しやすい・伝えやすいことであり、相互に関連していて、これらを満たさないと情報は伝わらない。

私が活動している中野区は100カ国以上の外国籍住民がいる。すべての人が理解できるような多言語化は財政的にも人材的にも不可能である。

その情報伝達は外国人と日本人であったり、外国人同士であったりする。外国人には日本語で交流したいという人も多い。

そのような背景から一般の外国人が理解できる「わかる日本語」が必要である。情報難民を出さないために「中野方式」では外国人の2/3を「わかる日本語」で救い、残りの1/3を「わかる日本語」から翻訳した「わかる多言語」で救うことができる。「わかる日本語」が基幹語になる。

「わかる日本語」の学習者は100%理解できることを目指して



いる。

中野区で 23 年間の「わかる日本語」の普及活動で以下のことが見えてきた。

- ・外国籍住民の 2/3 は通訳・翻訳者になりうること。
- ・防災計画では、災害時に外国人は要支援者として扱われているが、「わかる日本語」ができると支援者になりうる。
- ・「わかる日本語」を使って行政情報を発信すれば、多言語化するよりは経費を抑制できる。
- ・多言語化の限界を克服できる。
- ・あらゆる社会階層・あらゆる世代にわたって理解させられる。
- ・「わかる日本語」を使って理解した外国人が、次には発信者になりうる。

これらのメリットから今後「わかる日本語」がコミュニケーション・ツールとして定着するのではないかな。

（３）小野木 溪さん 近藤 怜子さん 三田 真未さん

（元 慶應義塾大学 SFC 政策研究支援機構）

◇「進む内なる国際化」～「やさしい日本語」を活かした地域協働の実現～

大学の「やさしい日本語」研究グループが SFC 政策研究支援機構と関わりのある東京都福生市の職員の縁で外国籍住民への行政サービスの手伝いをするようになった。

外国籍住民へ行政情報サービスにおいて「やさしい日本語」の有効性を検証するために、日本語教室で外国人との交流と調査活動を始めた。



「やさしい日本語」のアンケート結果、外国籍住民は「やさしい日本語」を有効であると感じ、興味をもっている人が多くいた。また、市役所でのやりとりに困難を感じている人も多かった。

福生市役所の生活情報冊子の「やさしい日本語」版を市職員および外国籍住民と話し合いながら作成

した。外国籍住民からの聞き取りでは、絵や写真の使用、箇条書き、語と語の間にスペース、難しい語の後には英語を入れる、などを求める意見があった。

「やさしい日本語」の取り組みによって外国籍住民、市民ボランティア、行政の地域協働のかたちができる。

冊子作成の後、「地域協働ワークショップ」を開催した。



日本人と外国人の価値観の違い、「やさしい日本語」が地域協働を促すツールとして有効性、市役所職員は外国籍住民の抱える問題に気づいたという感想を得た。

「やさしい日本語」によって外国籍住民・市民・行政の相互理解をはぐくみ、地域協働を促進する効果があるということがわかった。

ファシリテーター：

寺嶋誠一郎さん（中野区国際交流協会常務理事）

（４）パネルディスカッション

◇「わかる日本語」が必要とされる背景は

近 藤：行政サービスの多言語化はマジョリティの言語が中心で、少数言語の外国人との情報格差が生じている。

梶 村：多文化共生社会において行政情報提供において「わかる日本語」がますます必要性が増している。アンケートでは、「わかる日本語」を求める外国人は 80%以上いる。

中 山：中野区では 1 万 3 千人、100 カ国の外国籍住民がいる。一番大事なことは、多数派だけに焦点を合わせるのではなく、一番困難な状況にある人の人権を保障しなくてはならない。外国籍住民にすべてに対応する多言語化は不可能である。少数言語の場合は人材もいないし、翻訳の内容もチェックできない。「わかる日本語」が必要になる。

◇日本語教室の様子、情報伝達における課題は

中 山：日本語教室のボランティアスタッフには「わかる日本語」の研修を徹底させている。ある国語科の先生は、日本の子どもにも「わかる日本語」は日本語指導の参考になると言っていた。

多言語化での限界を克服するために「わかる日本語」が必要である。多言語化には、①過重負担（翻訳にかかる費用・人材）、②チェック機能の困難（内容が適切かどうか）、③緊急時の時間との闘い、が挙げられる。

小野木：大学の後輩が生活情報冊子を使って外国人と交流しているが、そこで日本語教室についてもっと情報がほしいという声があった。外国人と一緒に勉強していると外国人が必要とする情報がなにかを知ることができ、問題点がわかってくる。

三 田：日本語の文章を「やさしい日本語」を使ってどこまで言い換えるかの判断が難しい。外国人と対面していればわかるが、冊子では直接反応がわからないので、ある基準が必要だと思う。

梶 村：「わかる日本語」研究会でもその基準が難しいと感じている。行政用語をどこまで言い換えて表現するかが難しい。

三 田：生活便利帳では日本語能力検定の N4 を基準にした。市職員とやりとりしながら作っていった。

梶 村：伝える情報によって、緊急時の情報は N5、時間に余裕がある場合は N4 にするなど、使い分けている。

中 山：中野方式ではできる限り N5 のレベルにしている。行政の文章はわかりにくく、そのまま英訳しても意味が伝わらない。一筋縄ではいかない。外来語も外国人には通じないことが多い。

◇これからの展望について

中 山：多文化共生の架け橋になる、翻訳・通訳にあたる人材の育成が必要である。
多様性を含む「わかる日本語」の基準作りを考えたい。

近 藤：地域協働の促進を導く「やさしい日本語」を普及していきたい。

梶 村：学習支援の場を充実させていきたい。行政と連携して場所・人・金を確保したい。

◇国立国語研究所日本語教育研究・情報センターの森篤嗣准教授からの意見

森 　：「やさしい日本語」の基準づくりは一筋縄ではいかない。ただ基準を決めても努力目標になってしまう。誰にとっての「やさしい日本語」を考えなくてはいけない。中国系の人には漢字のままだがよいが、ブラジル系の人にはわからない。

1988 年に野元菊雄先生が簡略日本語を発表したが、マスコミに徹底的に批判され、撤回した出来事があった。「やさしい日本語」の基準を作るということは言語規制、言語統制になることを意識しないといけない。

現在、庵先生を中心に「やさしい日本語」の基準づくりのプロジェクトが進んでいる。「やさしい日本語」は、自然言語処理、日本語教育、日本語学の研究者が協力して翻訳者・通訳者を育成するとよい。

「やさしい日本語」の作成は、自動換言システムによる方法と作成支援ツールによる2つの方法が考えられる。前者は厳格で、時間と費用がかかる。後者は日本語教室で教えるのにふさわしい。

「書き言葉」と「話し言葉」を分けて考えるべき。「話し言葉」は地域の日本語ボランティアが本領を発揮できる。「書き言葉」に引っ張られずに、相手に伝わっているかを肌感覚で確認しながら使う。

◇まとめ

梶 村：行政の方に「わかる日本語」を学ぶ機会を設けてもらい、外国人の立場にたって情報提供のあり方を意識してほしい。隣人としてのやさしい気持ちが大切である。

中 山：森先生の意見を参考に「書き言葉」と「話し言葉」を意識したい。専門家の研究に期待するとともに、「わかる日本語」を使うときの人間的な心遣いを大事にしたい。

小野木：「やさしい日本語」の基準が必要だと思っている。伝えようとする人の「やさしい気持ち」も含めた「やさしい日本語」を普及させたい。



資料

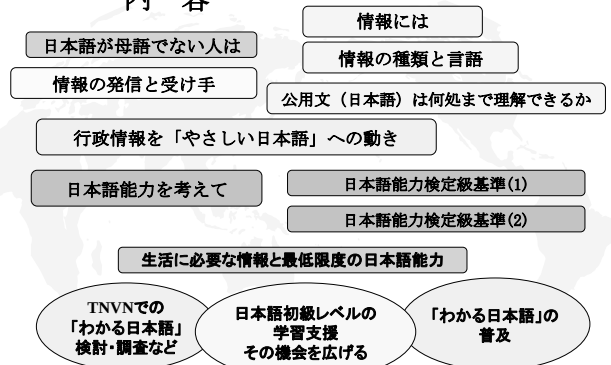
国際化市民フォーラム in TOKYO 2011年2月19日

第1分科会
日本語が母語でない人に「わかる日本語」で情報を

日本語ボランティアのひとりとして

東京日本語ボランティア・ネットワーク (TNVN) 代表
梶村 勝利

内容



日本語が母語でない人は

日本語が母語でない人は外国籍の人だけではない

在 住 目 的

在 住 期 間

家 族 構 成
性 別

多 言 語
多 国 籍

日本語のレベル
(読む、書く、話す)

情報の発信と受け手

情報の内容は何か

伝えたい情報が
必要の人に
的確に伝えられているか
情報の入手が容易か
内容が分かりやすいか

受け手はどんな人か

受けた情報から
行動に移せるか

同国籍・ネットワークでの
情報伝達
・情報誌 ・口コミ、その他

情報には

災害等の緊急情報

生活ガイド

役所・学校などからの
通知・案内

病院・公共施設での
質問書・諸文章等

日常生活の中で
(公共機関・街角など)

生活用品等の
説明書・解説書・パンフレット

行政情報の種類と言語

情報の種類

言語表現

広 報

生活ガイドブック

掲 示

ホームページ

情報誌（定期・不定期）

パンフレット・チラシ等

わかる日本語
やさしい日本語
での
情報伝達

多言語
(英語・中国語・ハングル)

日本語
漢字にルビ振り
平仮名文

多言語で書かれているが
わからない
日本語の文が難しい
多言語での限界

公用文（日本語）は何処まで理解できるか

分かりにくい・分からない

分かりやすく

文章が長く、
不要な表現 や 冗長な表現で
肝心の要件が直ぐにわからない

慣行に依拠する部分が大きい
読んでもわかりにくい

ある意味で制約的である

簡潔であること
趣旨が明確であること
具体的であること

分かりやすい公用文の書き方

行政情報を「やさしい日本語」への動き

研究者・専門家

行政・国際交流協会等

日本語教育機関

日本語ボランティア
団体・教室
TNVN

参考資料 いくつかの情報(web検索から)

日本語能力を考えて

日本語能力検定のレベル

[N5]

基本的な日本語を
ある程度理解することができる

[N4]

基本的な日本語を
理解することができる

[N3]

日常的な場面で
使われる日本語を
ある程度理解することができる

[N2]

日常的な場面で使われる日本語の
理解に加え、
より広い場面で使われる日本語を
ある程度理解することができる

[N1]

幅広い場面で使われる日本語を
理解することができる

日本語能力検定級基準(2009年までの) (1)

[N4] 3級

基本的な文法
漢字 (300字程度)

語彙 (1,500語程度) を
習得

300時間程度学習
初級コース修了
したレベル

日常生活に役立つ
会話ができ
簡単な文章が
読み書きできる
能力

日本語能力検定級基準(2009年までの) (2)

[N5] 4級

初歩的な文法
漢字 (100字程度)

語彙 (800語程度) を
習得

150時間程度学習
初級コース前半を
修了したレベル

簡単な会話ができ、
平易な文、
又は
短い文章が
読み書きできる
能力

TNVN での「わかる日本語」検討・調査など

Web検索

成果物 (生活ガイド・情報誌)

「やさしい日本語」への取組状況

TNVNでの検討

日本語ボランティア団体・教室への
アンケート調査
学習者・ボランティア

「わかる日本語」研究会のスタート

生活に必要な情報と最低限度の日本語能力

緊 急

生活ガイド
情報誌

日常の通知

[N5]
初級前半

[N4]
初級終了

日本語初級レベルの学習支援

公的機関（日本語教育専門）

国際交流協会等

民間教育機関
（日本語学校）

地域の
日本語ボランティア教室

誰でも受けられる日本語学習の場を

「わかる日本語」の普及

対象となる行政情報

日本語文の基準
と
用例集

実施のための研修会

検 討 会

行政担当者
専門家
地域の日本語ボランティア
日本語学習者
ほか

日本語が母語でない人への
確認と結果のフォロー

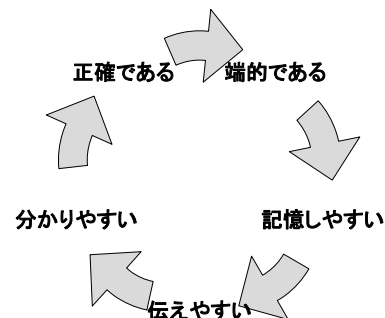
国際化市民フォーラム in Tokyo

～日本語が母語でない人に
「わかる日本語」で情報を～

中野区国際交流協会
専門員 中山真理子

(1) 情報伝達の条件とは？

- ・ 正確に
- ・ 端的に
- ・ 分かりやすい
- ・ 記憶しやすい
- ・ 伝えやすい



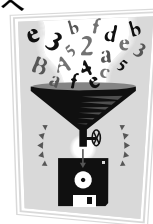
(2) 情報伝達における多言語化とわかる日本語

- ・ メジャーな言語は英語？中国語？
- ・ わかる日本語は少数言語か？
- ・ 中野の日本語クラスから見る現状



(3) 情報伝達での中野方式

- ・ 多言語化とわかる日本語
- ・ 多言語化でもあり、わかる日本語でもある
- ・ 多言語化とわかる日本語の二者択一か
- ・ わかる日本語からわかる多言語へ



(4) そもそも中野方式とは

- ・ 23年前協会発足当時から
- ・ わかる日本語指導: 日本語ボランティア養成講座での100%学習者が理解する指導の徹底
- ・ 日本語クラス、その他、各種イベントでの分かる日本語

(5) 中野方式を支える具体例

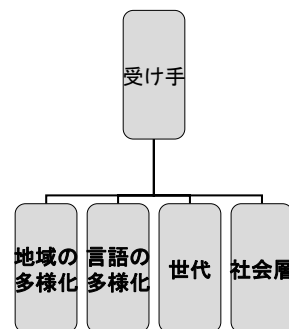
- ・ クラス内のイベントでの運営
- ・ 協会の各種事業での司会
- ・ 防災訓練の情報通訳
- ・ 外国人のための無料専門家相談会

(6) 中野方式から見えてきたもの

- ・ 外国人専門家相談会から見えたもの
- ・ 外国籍住民の2/3が通訳・翻訳者へ
- ・ 緊急時に要支援者から支援者へ
- ・ 広がる経費の歯止めには？
- ・ あらゆる世代にわかる
- ・ メジャー言語が第二言語、第三言語の住民でもわかる
- ・ あらゆる社会階層にわかる
- ・ 多言語化の限界を克服

(7-1) 情報の受け手の多様化

- ・ 世界のあらゆる地域から
- ・ 世界のあらゆる言語をもって
- ・ あらゆる世代
- ・ あらゆる社会層
- ・ 中野区で1万3千人、約100カ国
- ・ 協会の日本語学習者600人、約50カ国
- ・ 25人に一人4%



(7-2) 多言語化の限界

- ・ 定住化の促進
- ・ 広がるマイナー言語に対する対応
- ・ 主要言語の理解の限界
- ・ 際限なく広がる経費
- ・ 翻訳された情報は正確か、のチェック機能を持ちにくい



(8) 中野区国際交流協会における具体的な取り組み

- ・ 日本語ボランティア養成講座での指導法の徹底
- ・ 国・都・区・協会からの必要な情報は中野方式で
- ・ イベント・日常活動でボランティア・外国人・職員が
- ・ 中野区の総合防災訓練で通訳・翻訳
- ・ 東京都の総合防災訓練後方支援
- ・ 外国人専門家相談会
- ・ 中野生涯学習大学「国際理解ゼミ」でわかる日本語
 1. 外国の人と話そう
 2. 外国の人にわかる日本語に翻訳しよう

(9) わかる日本語での課題

- ・ 多言語化での限界の克服
 1. 過重負担
 2. チェック機能の困難
 3. 緊急時の時間との闘い

(10) わかる日本語の条件とは？

- ・ 簡単な言葉・漢字・構造(可能な限り日本語能力試験N5程度で)
- ・ 連体修飾・接続助詞を使わない
- ・ 語尾をはっきり、あいまいさを残さない
- ・ 尊敬語・謙譲語を使わず、「です・ます」の丁寧体
- ・ 省略せず主語・目的語などをきちんと入れる
- ・ できるだけ短い文
- ・ 擬音語・擬態語は使わない
- ・ ルビを振る
- ・ 不必要な情報は省く
- ・ 外来語は用いない
- ・ 簡単な日本語に言い換える
- ・ 「分かち書き」にする



(10)そしてフィードバック

- 協力者:
中野区国際交流協会日本語学習者
 1. アンドリュー アンドリュー (男 パラオ)
 2. キム ヒ ジョン (女 韓国)
 3. ロス ジェyson (男 カナダ)

(9)みんなで翻訳してみよう

- 課題1:地震
地震、この恐ろしい災害はいつ起こるか予測できないものです。地震が起きた時は、どうしたらよいのかを普段から心がけ、地震が起きたときに迅速で困難な行動が取れるよう備えておくことはとても大切なことです。ここに記載されている内容をよく観察し、いつ来るか分からない地震に備えてください。



やさしい日本語に翻訳すると・・・

(9)みんなで翻訳してみよう

- 課題2:インフルエンザ
◇生活必需品の準備をしましょう。
新型インフルエンザの大流行が起きると、生活に必要なものを入手しづらくなることが考えられます。できるだけ外出を控えることも重要なので、災害への備えと同様に、当面生活できるよう、最低でも2週間分の食料や日用品を準備しておきましょう。



わかる日本語に翻訳すると・・・

進む内なる国際化 —「やさしい日本語」を活かした 地域協働の実現—

元慶應義塾大学政策研究グループ
小野木 溪 近藤 怜子 三田 真未

活動目的・内容

<目的>

「やさしい日本語」による外国籍住民への有効な言語サービスの在り方を明らかにする。

<内容>

- ・ 期間：2007年6月～2009年2月
- ・ 地域：東京都福生市、神奈川県、青森県、兵庫県
- ・ 活動Ⅰ：外国籍住民の「やさしい日本語」の認知度・ニーズ調査
- ・ 活動Ⅱ：「やさしい日本語」を用いた情報発信
- ・ 活動Ⅲ：「やさしい日本語」ワークショップの開催

2

活動Ⅰ（認知度・ニーズ調査）

- ・ 東京都福生市での調査（2007年9月）
外国籍住民153名へのアンケート調査
（どのように情報を得ているか、どのような情報が必要か、「やさしい日本語」についてどう思うか）
－ 国際交流教室「ゆうあい福生」に通い、外国籍住民たちとの信頼関係を構築

<結果>

- 「やさしい日本語」を有効だと感じる、興味を持つ外国籍住民が多数存在
 - 市役所でのやりとりで困難
- 市役所の生活情報冊子の「やさしい日本語」版作成

3

活動Ⅱ（情報発信）

- ・ 「外国人のための生活便利帳」のやさしい日本語版の作成

日本語を含む6カ国語で、緊急、防災、電気、ガス、水道、税金、出産、保育、教育など、生活に必要な情報について書かれた福生市が発行している冊子。

内容、レイアウト、配布場所に関して外国籍住民や市役所と意見交換を行いながら作成。

4

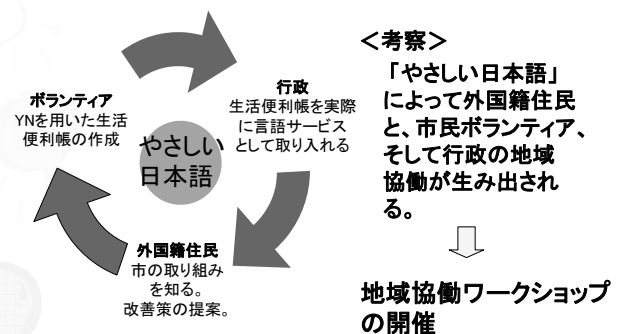
活動Ⅱ（情報発信）

- ・ 外国籍住民からの意見
- ・ 絵や写真の使用
- ・ 箇条書き
- ・ 語と語の間にスペース
- ・ 難しい語の後には英語を入れる



5

活動Ⅱによる考察（情報発信）



6

活動Ⅲ(ワークショップ)

- ・ 日時: 2008年12月21日(日) 13:30~16:30
- ・ 場所: 福生市さくら会館 来場者: 約100名
- ・ 目的: 多文化共生とは何か、地域協働とは何か、民官学の連携とは何かについて参加者とともに気づきを得る。また、「やさしい日本語」を取り上げ、外国籍住民と日本人たちのコミュニケーションツール、また地域協働を促すツールとなり得ることを体感してもらう。
- ・ 主催: 平高史也研究会「やさしい日本語」プロジェクト
- ・ 後援: 福生市役所、SFC政策研究支援機構
- ・ 内容:
 - ・ 第1部:「異文化理解ワークショップ」
 - ・ 第2部:「やさしい日本語」ワークショップ
 - ・ 第3部: パネルディスカッション



「ワークショップのポスター」

第1部:異文化理解ワークショップ

- ・ 目的: ゲームを通じて多文化理解・多文化共生について考えてもらう。
- ・ 進行役: 武蔵野市国際交流協会 宮崎妙子氏
- ・ 内容:
 - 「部屋の四隅」: 四つ角を利用して、多文化共生に関する質問をなげかける。
 - 「レヌカの学び」: 10人一組のグループでカードの分類を通じて、それぞれが持つ価値観の違いを認識する。

8



↑「部屋の四隅」

↓「レヌカの学び」
(市長と平高先生)



9

第2部:「やさしい日本語」ワークショップ

- ・ 目的: 「やさしい日本語」を用いた情報発信の有効性、地域協働を促すツールとしての有効性を体感する。
- ・ 進行役: 「やさしい日本語」チーム
- ・ 内容:
 - 10人一組のグループで「日本語の文」を「やさしい日本語」へと書き換え、発表する。
 - 本研究プロジェクトの概要を説明。

10



↑「内容説明中」

日本人市民、外国籍住民、
市役所関係者、
みんな一緒に考え中。



11



↓「各グループの発表中」

日本語がんばって
書いてます。



12

第3部：パネルディスカッション

- ・ 目的：市民、外国籍住民、NPO、行政、教育機関の代表者を集めて多文化共生社会についての意見交換を行う。
- ・ 登壇者：
 - － 吉富志津代氏（NPO多文化プロキープグループ代表）
 - － 伊藤静一（福生公民館長）
 - － 飯岡一文氏（福生国際交流協会代表）
 - － アラガキ・ルイス氏（「ゆうあいふっさ」学習者）
 - － カミモト・アウグスト氏（「ゆうあいふっさ」学習者）
 - － 小野木溪（慶應義塾大学学生）

13



↑「ディスカッション」

↓「質疑応答」



14

アンケート結果

- ・ 一番面白かったプログラム
 - 第1部...11人
 - － 自分の中に、外国人に対する固定観念や先入観が強くあると感じた。（価値観の違いに関する気づき）
 - 第2部...25人
 - － 自分が思うやさしい日本語と、外国籍の方の作るやさしい日本語の間に開きがあってびっくりしました。（日本語の難しさへの気づき）
 - － ルビのふり方や文章の区切り方など、さらなる工夫が必要だと思う。みんなで作り上げる作業はとても楽しい時間であった。（地域協働を促すツールとしての実感）
 - 第3部...7人、全部...3人
 - － 外国人の労働問題への意見、市としての対応の必要性。（市役所職員）（外国籍住民が抱える問題への気づき）

15

メディアの反応

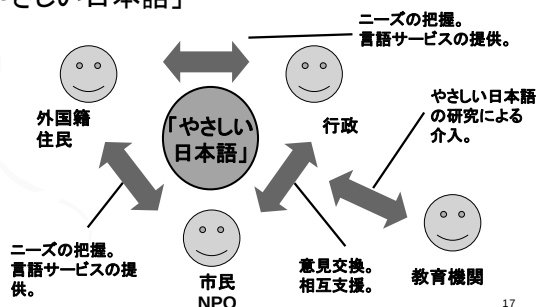


読売新聞(2回)、毎日新聞、西多摩新聞、多摩ケーブル等各メディアにも取り上げられた。

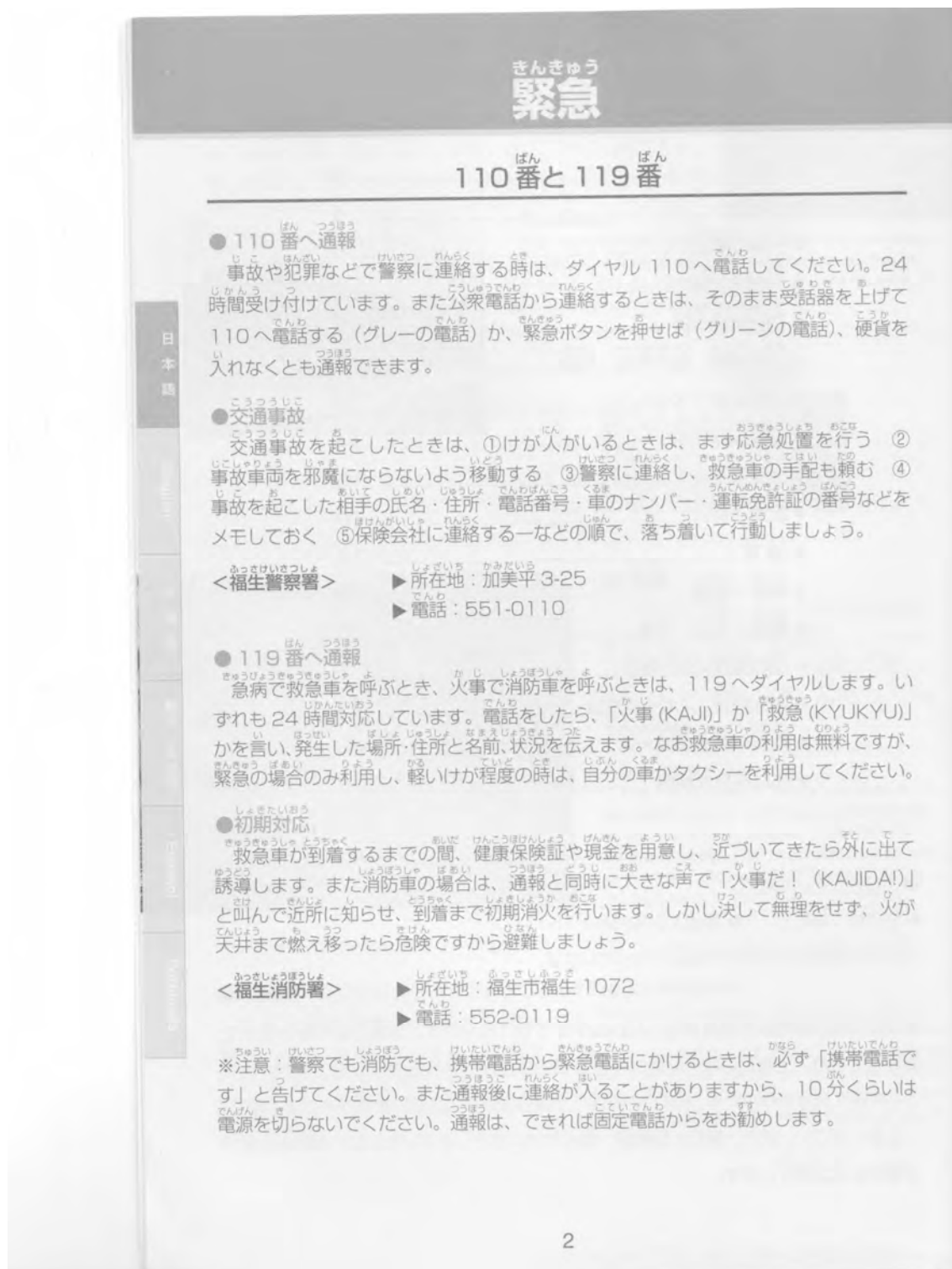
16

まとめ

- ・ 「相互理解」ひいては「地域協働」を促進する「やさしい日本語」



17



きんきゅう
緊急

事故・犯罪 → 「☎110」へ 電話

● 事故・犯罪 → 警察 (police) 「☎110」へ電話。
 (24時間 電話 できます。)

公衆電話 (外に ある 電話) から 連絡する ときは、
 お金を 入れなくても 連絡が できます。

・はい色の 公衆電話
 → 受話器 (話す ところ) を 上げて、
 「☎110」を 押す。

みどり色の 公衆電話
 → 赤色の 緊急ボタンを 押す。




交通事故 (Traffic Accident)

● 交通事故の とき

- ①けが人が いる ときは 応急処置 (病院に 行く 前の 手当) を する。
- ②警察に 連絡し、伝える。 救急車 (けがや 病気の 人を 運ぶ 車 ambulance) を 呼ぶ。
- ③事故に あった 車を、じゃまに ならないように 運ぶ。
 ①～③のように、急がないで 動きましょう。

急な けがや 病気・火事 → 「☎119」へ 電話

● 急な 病気で 救急車 (けがや 病気の 人を 運ぶ 車) を 呼ぶ とき、火事で 消防車 (火を 消す 車 fire engine) を 呼ぶ とき

①消防署 「☎119」へ 電話。(24時間 電話 できます。)

分科会 2

●テーマ ブータンから学ぶ幸せな地域づくり

- ねらい ヒマラヤの仏教国ブータンで提唱されたGNH（国民総幸福量）とは、国民の精神的な幸福や豊かさを追求する概念です。ブータンにおいて幸せな国づくりに協力しているJICAの事例や実際の現地の状況、GNHの哲学を政策にも取り入れている荒川区の事例発表を通して、地域コミュニティにおける人とのつながりや助け合い、住民一人ひとりの幸せについて考えます。

＜企画：JICA地球ひろば＞

- ファシリテーター 山崎 唯司 （JICA地球ひろば 市民参加協力アドバイザー）

- パネリスト 北川 嘉昭 （荒川区総務企画部長）

田儀 耕司 （公益社団法人日本環境教育フォーラム 国際事業部長）

津川 智明 （JICA専門家 ブータン・地方行政）

鈴木 麻美 （青年海外協力隊帰国隊員 ブータン・日本語教師）

- 参加者数 46名

（１）JICA 地球ひろば挨拶

「JICA 地球ひろば」は、2006年4月に市民参加の国際協力の拠点としてオープン。各種セミナーの開催や、当館1階の体験ゾーンを通じて、市民、学校関係者の方々に国際協力、途上国の現状をわかりやすく伝えている。日本政府の国際協力活動は世界140カ国で実施されている。

JICAはそこに住む人々を個人の安全と幸せを考えながら開発援助をしていく「人間の安全保障」という理念の下活動をしている。グローバル化現象の中で国だけでなく一人一人を見ていかなければならない。中東各国で反政府運動が起きているが、デモに参加している人々は

貧しい人々ではなく、中産階級の若者が行っている。

国としてとらえるよりも、一人一人の幸せを考えていく必要がある。ブータンは神秘的な国である

が、経済指標を見ると決して豊かな国ではない。「幸せとは何か？」「開発とは何か？」を今日はみなさんと一緒に考えていきたい。



ファシリテーター：

山崎 唯司さん（JICA 地球ひろば 市民参加協力アドバイザー）

(2) 津川 智明さん

(JICA 専門家／ブータン・地方行政)

ブータンの概要。九州と同じくらいの大きさであり、北は中国、南はインドという大国にはさまれた小さな国。人口は 68 万人（2005 年国政調査）、言語はゾンカ語、教科は英語で教えられている。1907 年に国家として統一され、第 3 代、4 代国王が国の基盤を作った。現在の国王は第 5 代目であり（2006 年即位）、それまでの絶対君主制から立憲君主制となっている。国の建設として先を見通した 5 ヶ年計画（第 10 次）が実施されている。

2008 年 7 月 17 日にユニークな憲法が発布されたが、それまでは憲法がなかった。第 2 章に国王に定年があり、男性でも女性でも一番上の方が即位するということを明記している。また、国王を辞めさせることができる。宗教の自由や、森林を 60%保護すること、1958 年以後に入ってきた人々は不法入国となることも記されている。（1960 年ころから道路建設の労働者が医療、教育、無料であるブータンにそのまま住んでしまったことがきっかけ。）第 9 条に、今日のメインテーマ GNH が憲法の中に明記されている。国王自らが権限を国民に渡した民主化であり、これは非常に世界の中でも珍しいケースである。



明治初期の日本も貧しい人は多くいたが、貧困はなかった。貧しいけれど幸福度が高い。貧しい＝不幸なのか。現在の日本は豊かだけれども、幸福度は低いのではないかな。

GNH の 4 つの柱（1.持続可能かつ公正な社会経済的発展、2.環境の保全、3.文化の保護と促進、4.よい統治）と 9 つの領域。GNH は『ブータンの国づくりの目標である』と私は思っている。明確な国作りの目標として、4 つの柱、9 つの指標を見ながら国づくりを進めている。「ブータンの人々は幸せな人が多い。（国税調査 97%）」「何が幸せなのかを見たい」という人が多いが、中には自殺される方もいるし、ストレスを抱えている方もいる。ただし、ゆとりのある生活をされていて、その中で暮らしているということは間違いのないと思う。

最後に、現状としてブータンが幸せそうな国に見えますが、今日日本がブータンから何を学ぶべきか、日本が進んでいる方向性の大きな発想の転換が必要である。「洋食から和食へ、西洋医療から東洋医療への変換」よりももっとダイナミックな変化をしていかなければならないと思う。

(コーディネーターコメント)

GNH は、国づくりの目標である。豊かな国ではないが、貧困な国ではない。貧しさと貧困がどう違うのか？貧困＝困、貧しいに「困」は入っていない。同じような言葉であるが、大きく意味が違うのではないかな。

(2) 鈴木 麻美さん

(青年海外協力隊帰国隊員／ブータン・日本語教師)

2008 年から 2 年間、首都ティンブーの観光局に所属し青年海外協力隊日本語教師として活動。ブータンについては、仏教国、GNH の国というイメージがあった。

仕事内容は日本人観光客のための観光ガイドの育成（日本語教室運営）であり、GNH という言葉からも幸せな人が多くいて、その人たちと過ごすことで自分自身の GNH もあがるのではないかと、素敵な国を想像し、大きな期待をして 2008 年 6 月にブータンに赴任。しかし、国王の交代の時期でありブータン全体が盛り上がっていたため、3 ヶ月間何もできなかった。国王の戴冠式が終わり、やっと教室を始めることになった。30 名の申込みだったが、参加する生徒が徐々に減っていき、最後は 4 人になってしまった。今までぶつかったことのない異文化に触れ、彼らを受け入れることができず、ストレスで体を壊して倒れてしま



った。それをきっかけに、ブータンの文化を理解して、彼らと共に生活してみようと決心した。

ブータン人の日常生活。これから見せる写真や話す内容は、あくまでも自分がブータンで出会った人たちの話であり、すべてのブータン人にあてはまるわけではないことを了解いただきたい。休日や時間があるときはひたすら散歩する。一日町にいても飽きないのは、誰かに会えるから。家族と過ごす時間が多い、家族で集まってたわいもない話をして過ごしている。友人宅に遊びに行くと、いつも知らない人がいる。遠い親戚であっても家族の一員で、いつも

助け合いながら生活をしている。お酒が大好きで、お酒がコミュニケーションのひとつになっている。職場と自宅が近いためか、仕事帰りにみんなが寄ってくる。お店の人と話していると、あっという間に時間が過ぎる。友達だけでなく、どんな人もみんなフレンドリーに話をしてくれる。田植えや稲刈りの時期になると、ご近所さんと稲刈りをしたり、苗を植えたりしながら、コミュニティの中では、みなお互いに助け合いながら日々生活している。

ある生徒の言葉。「幸せって何？」「人は死ぬときに何も持っていけない、何も必要のないに、なぜ必要のないものを買って自分を着飾っているのだろう？その分、貧しい人たちに分け与える生活をすれば、神様が自分を正しい道に連れて行ってくれるんじゃないか。」「日本人は素敵な時計を持っている。でも、人生を楽しむ時間を持っていない。日本人は忙しすぎて、朝子どもが何時に起きて何時に寝るのかを知らない父親がたくさんいる。それって幸せなことだと思う？」

私は答えることができなかった。ブータン人は家族と過ごす時間を大切にしている。常に幸せとは何かを考えながら生活している。みなさん、幸せって何ですか？

最後に、国王について。ブータンで 2 年間生活する中で、国王がブータン人にとって大切

な存在であることを感じた。「国王は自分たちのために何でもしてくれる。人間は必要なときにお互い助け合って生きていけばいいし、今あるもので幸せ。国王が自分たちのために働いてくれるから、ブータンに生まれて幸せ」と友人に言われた。すべての人がこうだとは限らないが、こういった思いを持っているブータン人が多いということからも、ブータンは素敵な国だと思う。

(コーディネーターコメント)

幸せって何？と聞かれて、息詰まるのでは。自分を幸せにするための時間という考え方が、ブータンの普通の人たちからその言葉が出るということは、国王のリーダーシップが大きな力となっている。日本に生まれて幸せと言えるのか？自問自答しなければいけないような内容を提示いただいた。

(3) 田儀 耕司さん (公益社団法人日本環境教育フォーラム国際事業部長)

日本環境教育フォーラムの紹介。1987 年設立。

- ・子どもを対象とした普及啓発プログラム
- ・学生を対象とした環境教育プログラム
- ・普及啓発プログラム（大人対象）
- ・指導者の養成（エコインストラクター養成講座、指導者養成講座）
- ・国際協力事業（JICA 草の根技術協力事業：インドネシア・ジャワ島の保護区周辺での住民支援事業）

ブータンとの関わり。私たちはこれからブータンと関わっていく予定で、まだ一緒にプロジェクトは行っていない。JICA が実施した「アジア地域地元自然資源を活用したエコツーリズム展開のための研修」事業を担当したことがきっかけ。ブータンからも研修員を受け入れ、研修員から提案されたアクションプランを協働で事業を行うことになった。2011 年 4 月から 2014 年 9 月まで JICA 草の根技術協力事業として「ブータン王国ポブジカにおける地域に根ざした持続可能な観光の開発プロジェクト」を実施予定。

森林の保全を熱心に行っている国ブータンで、地域の人々にとってメリットのあるエコツーリズムの仕組みづくりをポブジカで行う。

ポブジカに広がっている湿地にはオグロヅルが 500 羽程越冬にやってくる。95 パーセントが農業を行っている農家のうち、85 パーセントの世帯でジャガイモ生産を行っている。ポ



ブジカでお金を稼ぐ手段がないのが課題。春のシャクナゲ、秋のお祭り、冬の鶴観察で、最近観光客が急増。ブータンは特殊な観光形態であり、海外からの観光客は1人あたり一律1日200ドル（もうすぐ250ドルにあがる）を旅行会社に支払う。ガイド代、宿泊費、移動費、食費も含まれている。地元にお金が落ちない仕組みである。しかし、観光が現在は2番目の外貨獲得手段であり、貧困解決のひとつとして政策にも位置付けられたため観光振興を行えるようになったが、これまで観光に関わる人がいなかったでノウハウがない。私達が地元のNGOと協力して、地域の宝物探しを行い、地元の文化・資源・宝物を説明できる地元ガイドを育成し、旅行者と地元の人が触れ合えるホームステイの機会、魅力的なお土産、地域の雇用機会拡大を目的として体験プログラムを開発することなどを考えている。お客さんが来るようなマーケティング戦略も作成していきたい。

私達は経済支援だけを考えているわけではない。地元の人がツルや地元の資源に対して、今以上に自然環境を価値あるものとして認めてくれることを目標に事業を進めていきたい。それをひとつのきっかけとして、ブータンのエコツアーのモデルを作っていきたい。自然も文化も豊かなブータンで、地域別に差異化できるようになれば良いと思う。身近に関わる中で学んでいきたいことは「自然との共生」。急速に国は発展しなくても良い。隣のインド、ネパールを見て、自分達は現状で良いと、あるブータン人が言っていた。ブータン人の生き方「足るを知る」、「身の丈にあった生き方」に学ぶことが多い。

（コーディネーターコメント）

昔からエコツーリズムの概念はあり、GNHと同じく言葉だけが先行していた。自然と人間の共存・共生、自然環境の中で、国民のために、公平に、プラスもマイナスも負担できれば世界的にも素晴らしいものができるのではないかと期待している。

（4）北川 嘉昭さん

（荒川区総務企画部長）

「ブータンから学ぶ幸せな地域づくり」というテーマの、「地域づくり」の話をしたい。地方自治法第一条の「住民の福祉」が増進した状態を「幸福」とすれば、地方自治体は住民を幸福にするために存在していると言っても過言ではない。

公的なサービスの評価、施策の目的、期待される効果が、住民にどのように役立ったかについて、これまで定量評価はほとんどされてこなかった。

また、福祉や街づくりなどの異なる分野のどちらを重点化するかについても判断基準がない。異なる分野の施策であっても、共通の目標は「住民の幸福」であり、住民の幸福度の向上にどれだけ寄与するかを基

準にして、財源配分できないか。これが可能となれば、真の意味での住民本位の行政を実

現でき、最も合理的な「選択と集中」が可能となり、究極の行政改革ともいえる。

海外においても、カナダ、イギリス、オランダなど先進諸国では、物質的に豊かさではなく、心の豊かさ、生きる価値という意味で幸福度が研究されている。

ブータンの指標については、社会の状況はかなり異なっており、これをそのまま自治体に活用するのは難しい。

荒川区長は「区政は区民を幸せにするシステムである」というドメインを掲げ、平成17年に荒川区民総幸福度（GAH）を提唱し、その後、職員をブータンに派遣したり、世論調査で幸福度を調査している。



戦火や極貧状態では生命維持が幸福である。一定水準を超えると収入が増えても幸福度は高まらず、豊かな社会では、社会貢献などが幸福度に寄与する。区が実施する世論調査では、幸福な生活に必要なことという質問では、「健康であること」が非常に高い回答率で、「家族との関係」や「住まい」が続いている。「安全・安心」ではマスコミの影響が大きく出ることもある。様々な要素が複雑に絡み合って幸福が構成されており、幸福度をどう調べ、評価するかは非常に難しい。例えば、幸福度では、きわめて主観的要素が入ってくること、幸福度を構成する要素の重み付けが必要なこと、一過性の幸福と継続的な幸福があること、質問の仕方でも回答が変わってくること、サービスが高いレベルにあっても、それが「当たり前」になってしまうことなどである。

幸福度を指標化することが目的ではない。幸福とは何かについて行政と住民がともに考えることを通じて、住民の運動としていきたい。自分の能力を活かし、社会に貢献することが個人の幸福にも寄与するという考えを住民と共有できれば、自分の持てるもの、持てる力を少しずつでも他の人に分かち合える、思いやりにあふれた温かい地域社会につながるのではないか。荒川区の取り組みがきっかけとなり、全国の自治体に伝わり、取り入れようとする動きが起こるようであれば、荒川区の職員にとっての「幸福」につながるだろう。

（コーディネーターコメント）

個々の満足度は様々。満足度の総括として区民のために住みやすい地域づくり、荒川区として幸福度について取組んだことで、区の職員が元気になったことや区長や区の政策に誇りを持つようになったことが大変素晴らしい。

（５）質問を交えてのディスカッション

①仏教とのつながりについて

津 川：仏教の教えが GNH の根本にあり、大きく反映されているのではないかな。
ブータンの生活に仏教は欠かせない存在。

鈴 木：日本語教室の生徒から仏教について教えてもらうことが多かった。共生を表す仏画にはいろんな意味がある。死後の世界のことを考えて、「助け合いながら生きていく」という考えは、仏教の教えからきている。学校のカリキュラムでも、仏教の時間がある。

②国王のリーダーシップ。リーダーが変わったらどうなるのか。荒川区長が変わったらどうなるのか？

北 川：行政としてずっと悩んできた課題であり、自治総合研究所という財団法人を作って研究をしているので、「やめろ」といわれることはないのではないかな。

③私たちが関わることによって、その人たちの幸福度が変わってくるのではないかな？

主体性を尊重するがために、事業を進めるにあたりどんな点に注意しているのかな？

田 儀：同じような質問もブータン事務所から受けた。私たちが関わることによって、ブータンの人の幸福度を変化させてしまってはいけない。ブータンの人々の中で「人よりもお金を稼ぎたい」という考え方はあまり感じられない。私たちの考えを押し付けるのではなく、地元の人たちと一緒に地元の人が気付かない魅力あるものを探していきたい。仲介役として関わっていきたい。

ブータン事務所仁田所長：２年半ほど前にブータンに赴任した。赴任前に高校生の甥っ子が「JICA は世界の困っている人たちのために仕事をしているのに、97%の人たちが幸せと感じている国に何をしにいくの？」との質問。田儀さんと同じく、仲介役。「ブータンがどうなりたいのか」をサポートするのが JICA の仕事である。ブータンがどうなりたいかは、憲法に書かれてあるため、それに寄り沿って事業を進めている。

④他の国ではなく、なぜブータンを選んだのか？関心をもったきっかけは？

田 儀：正直に言うと、後付け。研修を受けたときにブータンの人が持ってきたプランが、私たちの方針と一致した。ブータンは自然も文化も豊かな国。ただし、それを積極的に売り出すことをあまりしていない。
一方で、国策で観光料をとって観光客を受け入れている。ある一定程度のお金があ

る人をターゲットにしている。エコツーリズムは環境・文化に負荷をかけず地域の
人に還元することがメリットであるが、その好環境が揃っている。ただ、ブータン
にはリピーターが少ない。一回いくと満足する人が多い。幕の内弁当式の観光では
なく、地域の特色を出していく必要がある。小規模なエコツーリズムが全国展開さ
れる必要があると思っている。

北 川：区長が書籍で GNH の存在を知った。背景として、いろいろと事業はあるが、評価
する指標がない。GNH を使うことは、大きな発想の転換である。私も行政の哲学
の転換期であり、重要な課題と感じて取り組んでいる。

⑤世論調査がマスコミに影響とはどういうことか？

北 川：毒入り餃子の例がある。調査期間の頃にマスコミが報道しており、食の安全の項目
が下がった。子どもが誘拐されたなど、その時々マイナスの報道によって、安全
・安心の部分は大きく影響を受ける。

⑥「分かち合い」、「貧しさ＝貧困なのか」、「幸せとは何か？」などのキーワード、生活にうまく
く溶け込ませるためのアドバイスなどはあるか？

津 川：ブータンは、まだまだ豊かではない。だからこそ助け合いが行われる。そうせざる
を得ない状況にある。

昔の日本はそのようなことを行っていた。豊かなことは悪いことではないが、そこ
まで達して初めて、人との関わり、分かち合い、助け合いに気づくのではないか。

鈴 木：日本へのアドバイスはない。ブータンは物が無い、することがないので、人と助け
合う環境が自然と生まれている。日本とは比較できない。日本もブータンと同じよ
うになるかという、それは難しい。ただ、ブータン人の、心にゆとりを持ったり、
助け合って生きていこうという考え方は素晴らしく、それを心がけたりすることは
日本でもできるのではないか。

津 川：競争社会の日本でブータンのようにやると、生き残れない。ブータンの首相から、
公務員に対して「土日の会議は一切やめなさい。」これは GNH から考えると良いリ
ーダーシップではないか。土日は家族と過ごす時間を持てと、国のトップが言っ
ていることが素晴らしい。あるレベルに達していないうちは、物が欲しいと言うかも
しれないが、達したときに彼らが「もっと」と言うかわからない。ただ、仏教の教
えの「足るを知る」ことをブータンの人は学んでいる。

(コーディネーターコメント)

ブータンのすべてが見本になるとは限らないので、私たちは良いところ取りをすればいいのではないか。それをどんな形で何を持ってくるかは、個々のみなさんのそれぞれの判断になる。

(6) 参加者へまとめ・メッセージ

北 川：荒川区もまだまだこれからの状態。GNH は価値観の問題であり、海外で違う価値観から学ぶことは多い。ただ、それは欧米化ではない。物質文明に近づきすぎた社会を見直す時期。役所だけでなく、住民、企業なども含め、みんなで異なる価値観を考え、お互いに幸福に寄与しあえるような社会を作っていければと思う。

田 儀：ぜひブータンに来てください。実際に来て見ていただくことが大事。現在のブータンツアーの形態は不思議で、出てくる食べ物はどこも同じ。その土地特産のものが特にない。目の肥えた日本人に参加してもらって、ブータンのエコツアーが発展するよういろいろとアドバイスをいただきたい。

鈴 木：帰国してから毎日家と会社の往復。改めてブータンの時間の使い方がとても贅沢だった。常にみんなが笑顔でいられる、時間があることで心にゆとりがあることはとても良いこと。2 年間の貴重な経験を忘れずに生活していきたい。みなさんも、幸せとは何かについてぜひ考えてみてください。

津 川：田舎のお坊さんに「毎日そんなに何を祈っているのか」を聞くと、「世界平和。人々のためだけでなく、すべての生ける者の幸せを願っている。」と返ってきた。周りの人・家族が幸せでないと、自分は幸せになれないと多くの人が言っていた。人の幸せのために何ができるのか。今までの価値観を変えるのは難しい。同じようなやり方では継続できない。大きく発想を変えないといけない。

(コーディネーターコメント)

分かち合い、助け合いのキーワード、援助の世界でも大事なこと。これまでも言われているのに、なぜ世界は良くならないのか？ 自分がこのような仕事をしている根っこは母親の影響が強い。

「道端で困っている人がいたら、知らない人でも助けなさい。そしたら自分が困っていると

きに、助けてくれる人がいるかもしれない。」

池に石を投げて、波紋が広がる。岸に向かっていた波紋が自分に返ってくる。「人間というものは、自分が行ったことは、自分に返ってくるんだよ。」

これらが今も記憶にあるのは、言っていた人のことを敬愛しているから。その辺の誰かから言われても身につかないかもしれない。ブータンでは、国王が、荒川区では区長が、国民・住民から敬愛されているからこそその声が心に届くのではないか。今日、いろんな良いキーワードが出てきたが、ただ言いたいことを言うだけでなく、日々自分自身のことを高めていくことが大事なのではないか。



資料

貧しさは不幸なことか ーブータンの開発から考えるー

津川 智明

1. はじめに

「貧乏人は存在するが、貧困なるものは存在しない」渡辺京二『逝きし世の面影』p127にこの言葉を見つけた。江戸時代末期に日本を訪れた外国人が当時の日本を旅して描写した一文である。当時、惨めで非人間的形態の「貧困」が蔓延していたヨーロッパに比較して日本の「貧乏」は人間らしい満ち足りた生活と両立していると、この外国人は感銘と驚きをもって記した。

私はこれまで、通算 9 年以上、ヒマラヤ山中の小国ブータンで暮らした。ブータンの一人当たり GDP は 835 米ドル(2004 年 3 月現在)、国連開発計画の発表する人間開発指数は 142 位、農業人口は全体の 85 パーセント、いわゆる発展途上国であり「貧しい」国の一つである。「貧しさ」を改善しようとブータン政府は多くの援助機関に対し技術協力や資金協力を依頼している。かくいう私が通算 9 年という年月をブータンで過ごしたのもブータンの「貧しさ」を何とか改善したいとする側の一員としてであった。

私が始めてブータンに足を踏み入れたのは 1983 年、国連ボランティアとしてである。当時のブータンは今以上に貧しかった。援助関係の外国人は少なく、その中で日本人は私を含めて 3 人しかいなかった。一人はコロンボプランの専門家の西岡京治氏であり、もう一人はチベット仏教の研究者の今枝由郎氏であった。当時、インフラは未整備の状況で、電気は主な町にのみ夜間に数時間の時間配電であった。電話は国内でさえも交換手を通して限られた町だけに通話可能であった。主要幹線道路はできていたが舗装道路は限られており、車を見ただけで誰が所有者か判るくらい台数は少なかった。その頃ブータンへの入国手段は、インドからの陸路だけであったが、1983 年にパロとカルカッタとの間で、18 人乗りのプロペラ飛行機が就航した。

当時は 90%以上の国民が農民であり、残りは公務員で、それ以外の職業についている人は少なかった。人々の生活は自給自足に近かった。農業は機械化されていなかったせいもあり、近所の農民同士の共同作業が主流であった。農民の現金収入は少なく、従ってお金で物を買うということはかなり限られていたため、生活は貧しかったが不幸とは見えなかった。立派な家に住み、十分な食生活ができ、衣類に関しては女性たちが家で家族の着るものは織っていたからである。

本稿では過去数十年間に亘りブータンへの開発援助の主な目的となっている貧困削減の「貧困」に注目し、「貧困とはなにを指しているのか」「貧しさは不幸なこと」と言えるのだろうかという疑問をブータンの開発を通して考えてみたい。

2. ブータンの開発理念

ブータンの開発理念は、GNH(国民総幸福度:Gross National Happiness)である。これは、現国王が 1980 年代に唱えた考え方で、GNP (国民総生産:Gross National Product) に対比したものである。GNH を分かりやすく言えば、「国の開発目標は人々の生活の物質的な豊かさを目指すよりも人々の幸せにより重きを置く」というものである。

GNH についてのブータン政府の説明は次の 4 本柱に要約される。(1) バランスの取れた開発、(2) 環境保護、(3) 文化高揚、(4) 良い統治、である。(1) については、自然破壊をできるだけ抑えながらゆっくりとした開発を目指している。(2) については、自然環境を大切にすること。特に森林伐採については細かな規定を定めて厳しく取り締まっている。(3) についてはブータンの文化を大切に保存すること。例えば、ブータンの国語(ゾンカ語)の普及に力を入れたり、伝統的な礼儀作法を堅持していくための教育を取り入れたり、伝統建築様式を維持しようと努力をしている。(4) については、効率性、透明性を重視した政府の確立と地方行政の充実、さらに地方分権化の促進である。

国王のいう「物質的な豊かさより、幸せを実感できる社会」は、聞こえはいい。しかし、幸せの定義は人により千差万別であるから、共通の定義はむずかしい。ましては、幸せを測る指標を示せといわれると回答に窮する。ブータンの公的な研究機関である The Center for Bhutan Studies は GNH を測る指標として次の 9 つを提案している。

- ① The standard of living
- ② Health of the population
- ③ Education
- ④ Ecosystem vitality and diversity
- ⑤ Cultural vitality diversity
- ⑥ Time use and balance
- ⑦ Good governance
- ⑧ Community vitality
- ⑨ Emotional well being

これらの指標に従って評価し、評価値が高ければいわゆる GNH が高いといえる。これからわかるように、ブータンの GNH に基づく国家社会造りとは、個々人の物質的豊かさを求めるよりも、社会全体としての生活環境改善、言うならば人と人との関係を重視し精神的にも充実した満足感を得られるような社会の実現を目指しているといえる。

3. 貧困とは、なにを指しているのか

GNH の柱の一つである「バランスのとれた開発」は、周りの国々の開発を見ながらゆっくりとした開発を目指すことを意味している。そこで目指してきたのは、社会的貧困(例えばインフラ、教育、医療の未整備、文化、自然環境の破壊、ゆとりのない生活、地域の人々の助け合いがなされない社会等)の改善であり、決して個々人の経済的な貧しさの改善ではない。

近代化を開始した 1970 年代から 90 年代にかけて、ブータン政府は幹線道路の整備、全国通信網の整備、地方電化の整備を行いインフラ整備に取り組んできた。最近では地方農道の建設を積極的に行っている。教育や医療分野においてもサービスは全国津々浦々に着々と行き渡りつつある。

30 年をかけてゆっくりと、社会のインフラ面および教育、医療等の福祉の分野も改善されてきた。1980 年代になると地方分権化政策もはじまった。“地域の開発はその地域の住民の手で”という政策のもと、2008 年からは地域への交付金（block grant）を地方行政体に交付して、住民自身に地域開発の権限と責任を持たせるやり方を取ろうとしている。私自身、JICA の地方行政支援プロジェクトの専門家として、2004 年 10 月から 2006 年 10 月までブータンで活動した。地方分権化促進に伴い地方の開発を地方行政体で実施するようになれば、インフラ整備のスピードは中央政府がリードするよりゆっくりとなるが、将来的には地域住民の手でなされたほうが経済的にもメンテナンスの面からも大きな効果があるといえる。

冒頭の「貧乏人は存在するが貧困はなるものは存在しない」の「貧乏人」とは個々人の生活レベルにおける貧しさを示しており、「貧困」とは社会的住み難さを言い表しているとするれば、ブータンのGNHの考え方は、貧困の改善を目指していると理解できる。

ちなみに、ブータンの開発理念であるGNHについては、国際的な注目が集まり、2004 年にはブータンで国際会議が初めて開催され、2005 年にはカナダで第 2 回の会議が開催された。

4. 貧しさは不幸なことか

個々人の生活が豊かになれば、延いてはそれが社会全体の安定と幸福につながるという、歴史的な経験則がある。その結果、GDP の増加は為政者が国を運営していく上で最重要事項と考えられてきたし、貧困削減を旗印に「先進国」が「発展途上国」に援助を実施している理由の一つのもこのような経験則を受けての事である。

しかし、長年に亘る援助にもかかわらず、なかなか被援助国の状況に改善が見られないことや、先進国において豊かさを手にした人々が必ずしも「幸せを実感していない」現状をみて、「個人の生活が豊かになれば、社会全体の幸福度は増す」というこれまでの経験則への疑問が湧いてくる。さらにいえば、貧しさはこれまで惨めなものと捉えられてきたが、果たして貧しさは不幸なことなのかという問いを、江戸末期の日本やブータンの生活を見るにつけ再考する必要があると思う。なぜなら、私は 20 年来ブータン人の生活を見てきたが、裕福ではないが不幸とは思えなかったし、ブータン人の逞しい生活の仕方、屈託のない子供たちの笑顔から、豊かさは実感できる。友人家族の家に遊びに行ったときも彼らの生活が幸せそうに思えたのである。

5. おわりに

私が始めてブータンに足を踏み入れてから今日までの 20 年の間に、ブータンは大きく様

変わりした。滞在している日本人数は 100 名近くに増え、国連関係、JICA 関係、民間の仕事、結婚されている方、研究で滞在されている方と様々な立場で暮らしている。首都ティンブーの町は駐車場を探すのが難しいくらい車の数が増えた。頻繁にあった停電や電圧変動は大規模な水力発電所の建設で改善された。また、ここ 2～3 年で急速に普及し、国際電話も可能であり、インターネットカフェもいくつか出来た。オフィスにはパソコンが置かれ、コンピュータなしでは仕事ができないほど普及している。航空路はタイのバンコクやインドのニューデリーと結ばれている。2004 年末には 130 人乗りのジェット機も導入され観光客が大幅に増えたし、タイからの輸入物資が急激に増えている。

経済的に発展するに従い、人々の貧富の差は広がっているようである。また、若者の地方から町への移動も顕著になってきている。町へ移動してきた若者の就業機会があればいいが、なかなか仕事にありつけない状況も見られるようになった。

政治、経済、社会のどの分野でも国際的な大きな流れに、ブータンも飲み込まれつつある。世界の急速な変化の中にありながら、ブータンは GNH を国の道しるべとして標榜し、仏教を精神的な支えとして、精神面と物質面でのバランスの取れた国造りに取り組んでいる。ブータンの「貧困」は政府と人々の努力で改善され、「貧しさ」はそれを惨めとは思っていない。ブータンを訪れる外国人に、「人々の生活は貧しいが決して貧困ではない」といわずめるのが GNH の目指すところであろう。

ブータンは 2008 年に初の憲法が發布され、これまで 100 年続いた君主政治から立憲議会制に移行する。その憲法第 9 条に GNH について明記されている。

以上

ブータン人の……心の中、頭の中。



仏教国？！



民族衣装!?!?



ブータン

どんなイメージを持っていますか？

私のブータンでの目標

- 現地の人と、楽しく、仲良く
- 現地コミュニティにとけ込む
- 日本語教師として、多くの生徒と毎日楽しいクラス

これで、私のGNHもあがるかな？

さて……2008年6月23日赴任



11月5代目国王戴冠式
→ 約3ヶ月活動できず……

2008年11月下旬、やっと始まった日本語クラス
申し込者30名！！

実際は??



どうしても彼らを受け入れられない……

理解できない

どうして、思うように活動ができないのだろう……

彼らととことんつきあってみよう！！

ブータン人の日常生活



休日や時間があるとき(いつも?)



ひたすら散歩……



家畜の世話や畑仕事



家族とのひと時

食事はキッチンで家族(親戚)と



お酒好き



仕事帰りに押し寄せられたり



4時：牛乳を買いにいく。10時帰宅。



一緒にお茶をしながら店番



仕事中



* みんなでキュウリを食べています。

仕事中でも？



今日は試合があるんだ！！



仕事より家族が優先



日当、食事、そして酒を振る舞う



……先生。

What is HAPPINESS???



そんな彼らが思うこと

日本人は
時間がない……
人生は、
楽しむためにある

幸せって何ですか？

国王は私たちのために何でもしてくれる



「助け合って生きていく」 「今あるもので、幸せだと思える」

TASHI DELEK



御清聴ありがとうございました

2011年2月19日

ブータン王国ポプジカにおける 地域に根ざした持続可能な 観光の開発プロジェクト

(公社)日本環境教育フォーラム
国際事業部 田儀 耕司

自己紹介

- ※ 1996-2002 環境省、Wetlands Internationalで
湿地環境の保全、湿地環境保全の重要性を伝
える普及啓発
- ※ 2004-2006 マレーシア・ボルネオ島で、生物多
様性の保全に関する環境教育・普及啓発活動の
指導、政策の策定支援
- ※ 2007- 日本環境教育フォーラムで国際事業を担
当



日本環境教育フォーラムのご紹介

- ※ 環境教育を行う個人、団
体のネットワーク
- ※ 1987年に設立

より広い分野との交流や協力を進め、広
範な環境教育の実践や推進のための仕
組みづくりを通して、世界の課題である
持続可能な社会づくりに貢献します



2011/4/19

3

子供を対象とした普及啓発プログラム



王子の森自然学校
(王子製紙株式会社)



環境省、文部科学省
こどもパークレンジャー

2011/4/19

学生を対象とした環境教育プログラム



NEC Corporation
NEC 森のひとづくり講座
大学生を対象



アサヒビール株式会社
日本の環境を守る若武者育成塾
高校生を対象

2011/4/19

5

学生を対象とした環境教育プログラム

DENSO YOUTH for EARTH Action



大学生を対象とした体験型学習プログラム

2010年度のプログラム

- アセアン6カ国+日本から22名が参加
- 富士山、琵琶湖、愛知県で体験学習
- アクションプランの作成、発表



2011/4/19

6

普及啓発プログラム



損保ジャパン
市民のための環境公開講座



アサヒビール株式会社
アサヒビール環境文化講座

2011/4/19

7

指導者の養成

エコインストラクター養成講座 (環境省: ~2009)



2011/4/19



指導者養成講座

8

国際協力

海外での協力事業

持続可能な開発: 保全と適正な利用の両立
を支援

インドネシア・ジャワ島の保護区周辺での住民支援事業



2011/4/19

9

ブータンとのかかわり 1

JICAが行った「アジア地域地元自然資源を活用
したエコツーリズム展開のための研修」事業がき
っかけ



ブータンからの研修員をJEEFで受入



研修員から出されたアクションプランに対して、
JEEFで協働することに

ブータンとのかかわり 2

JICA草の根技術協力

期間: 2011年4月~2014年9月

協働先: 王立自然保護協会 (RSPN)

地域の人々にとってメリットのあるエコツーリ
ズムの仕組みづくりをポブジカで実施

ポブジカとは 1



ポブジカとは 2



ポブジカでは

主産業は農業:約85%の世帯でジャガイモ生産



冬季の生計手段の獲得が課題

観光資源が豊富で、観光客が増えている



ブータン特有の観光形態による阻害

地域でエコツーリズムを行える人がいなかった

ポブジカでおこなうこと 1

1. 地域の観光資源の掘り起こし
2. 地域ガイド、ホームステイ先の育成
3. お土産、体験プログラムなどの開発
4. マーケティングの支援



ポブジカで行うこと 2

ポブジカに地域主体で実施する、地元資源を活用したエコツーリズムのブータンモデルを作る



自然資源の適正な利用と環境保全の両立が
ブータン国内に普及

ブータンでの学び

自然との共生

- ブータンの人は、虫を殺すのも嫌がる
- 電気はソーラー発電、地中に埋設
- 国土の60%以上を森林として残す国策

足るを知る、身の丈にあった生き方

- 素朴で、正直な人柄
- 拝金主義に走らない



ご清聴ありがとうございました！

幸福を追求するシステム、 それが基礎自治体

なぜ、荒川区は幸福度の研究に取り組んだのか

荒川区総務企画部長
北川嘉昭

自治体の役割

地方自治法第一条の二

地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものとする。

福祉が増進した結果を「幸福」とするのであれば、地方自治体は、住民を幸福にするために存在していると言っても過言ではない

公的なサービスの評価

例えば

道路を〇〇m整備、公園を〇〇㎡整備
特別養護老人ホームを〇〇床整備
〇〇手当を〇人に〇〇円支給
〇〇教室に住民が〇〇人参加
予防接種の費用を〇〇人に補助
自動交付機で夜間に住民票を〇〇通交付

定量的ではあるが、すべての指標がアウトプット(供給量)であり、アウトカム(成果)ではない

各施策の目的、期待される効果

道路整備 → 安全性の向上、渋滞解消、景観向上、延焼防止等

手当支給 → 生活の安定、課題の解決、景気回復等

イベント → 地元産業の収益増、名産品の知名度向上等

個々の施策に目的はあるが、受益者である住民にとってどのように役立ったのかについての定量評価はほとんどされてこなかった。

異なる分野の施策でも共通の目標は「住民の幸福」

これからの財源配分は

住民の幸福度の向上にどのくらい寄与するのかを基準にして、各分野、各施策に対する財源配分を行うことができるか

これまで実施してきた施策についても幸福度の向上を基準にして、費用対効果を評価できないか

これが可能となれば、真の意味での住民本位の行政を実現できる
最も合理的な「選択と集中」であり、「究極の行政改革」とも言える

幸福度に関する海外での研究

近年、海外でも研究機関や政府レベルでの研究が広がっている。

- ① World Database of Happiness(オランダ・ロッテルダム、エラスムス大)
- ② World Values Survey(世界価値観調査、WVS)
- ③ Happy Planet Index (HPI)(イギリス)
- ④ ブータン・GNH
- ⑤ フランス
- ⑥ カナダ・Canadian Index of Well-Being(CIW)
- ⑦ ベルギー・WELLBEBE

ブータンの指標

荒川区自治総合研究所、川原健太郎訳に基づき作成

領 域	主 な 指 標
心理的幸福	精神的健康、祈祷文句復誦、瞑想、感覚の頻度(利己的、嫉妬、冷静、同情、寛容、挫折)、自殺思考 など
自然環境	河川汚染、土壌浸食、廃棄物処理、農場及び家屋の周囲への植林 など
健康	健康状態、体脂肪指標(BMI)、エイズの知識、母乳で育てる期間、保健所までの歩行距離 など
教育・教養	教育水準、識字率、民族歌謡の理解能力、地方伝説や民俗話の知識 など
文化	第一言語、伝統的遊戯・工芸、規律・公平の重要性を子どもに教えること、相互依存の重要性、態度(殺害、窃盗、嘘、性的非行)、祭典へ参加 など
基本的な生活	世帯収入、食糧不安、住宅の所有、部屋の比率、中古衣料の購入、地域共同体の祭典への貢献、家屋の修理や整備 など
時間の使い方	総労働時間、睡眠時間
地域共同体の活力	隣人への信頼、相互扶助、家族(相互に面倒をみる、口論、理解)、親戚の数の犯罪被害者、感覚(保護、憎しみ)、ボランティア、寄付、社会的支援
優れた統治	所得格差減少に関する中央政府の実績、汚職に立ち向かう中央政府の実績、言論自由、差別、中央省庁、県、メディアへの信頼 など

荒川区の取り組み

平成16年11月、西川太郎荒川区長は、「区政は区民を幸せにするシステムである」というドメインを設定

平成17年11月、西川区長が、荒川区民総幸福度(GAH)を提唱、同月、区若手職員によるPTを設置

平成18年11月、職員3名をブータンに派遣

平成19年以降、区政世論調査において幸福度を調査

平成21年10月、荒川区自治総合研究所で研究開始

学識経験者による研究会、区若手職員による ワーキンググループの2層で連携しながら研究

平成22年5月、GAHに関する本「あたたかい地域社会を築くための指標」を出版

幸福の構成要素は、マズロー的？

自己実現の欲求

自我の欲求

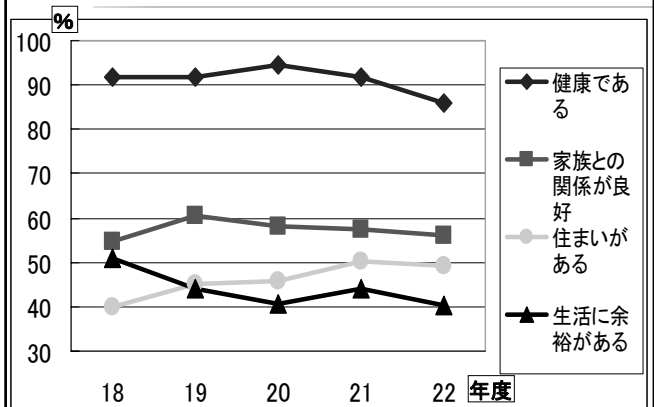
親和の欲求

安全の欲求

生理的欲求

・戦火や極貧状態では、生命維持が最優先
・一定水準を超えると収入が増えても幸福度は高まらない。
・豊かな社会になれば、仲間がいること、他に認められること、社会に貢献することなどの価値が高まる

世論調査結果「幸福な生活に必要なこと」



世論調査分野別調査項目

<暮らし>

健康
食生活
住まい
生活の余裕
家族との関係

<生きがい>

人から頼りにされること
自分が活躍する場
社会への貢献
余暇の充実
生きがい

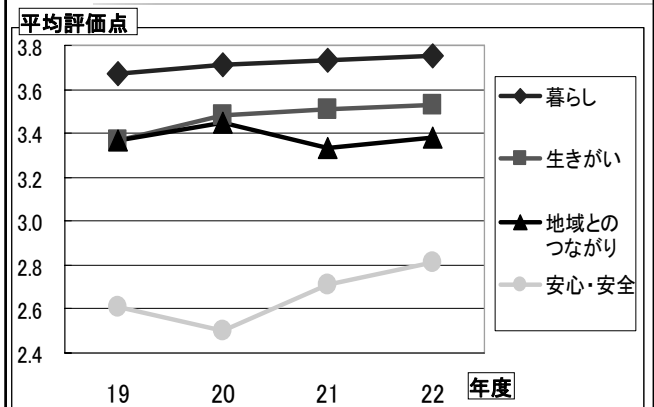
<地域とのつながり>

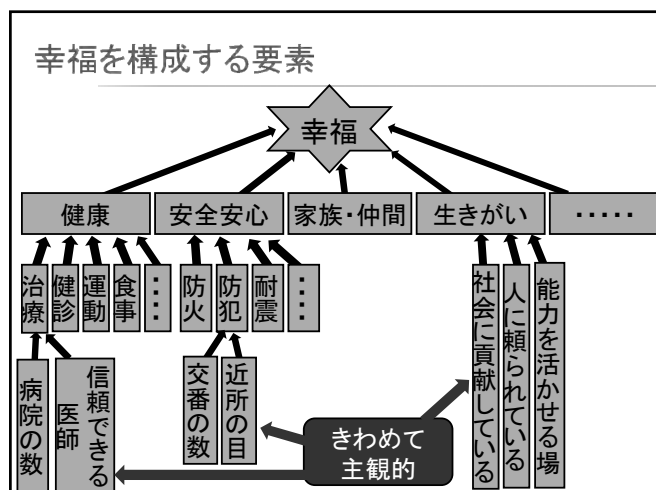
近所づきあい
地域活動・行事
地域の憩いの場
地域での頼れる人
地域への愛着

<安全・安心>

地震などの災害
治安
食の安全
子どもの安全
生活環境

世論調査結果「分野別平均」





幸福度をどう調べ、評価するか

- 幸福度の構成要素が、個人の幸福度にどれだけ寄与しているのか
⇒ 各要素の重み付けが必要
- 一過性の幸福と継続的な幸福があるのではないかと
⇒ 継続的な調査が必要
- 幸福度に関わる主体、環境等はきわめて多様
⇒ 社会を構成する様々な要素を網羅した調査が必要
- 満足度ではなく、幸福度であることを意識する
⇒ 困っていること、足りないことを調べるのではなく、回答者に幸福について考えてもらう必要がある

検討すべき課題は山積

- ・各指標も最終的に個人の主観的な幸福感に帰結する
- ・無くなってみないと自覚しない、潜在的な要素が多い
例：健康、食事、安全、家族
- ・高いレベルにあっても、次第にそれが「当たり前」になる
例：医療、保育、コンビニ
- ・その時々状況によって幸福度は大きな影響を受ける
例：調査の直前の気分、アンケートの質問の順番
マスコミの影響、個人の生活状況
- ・個々の指標の変化と公的サービス等との因果関係
- ・どのように定量化し、グロスを計算するか

幸福度を通じた地域力の強化

- ・幸福度により公共サービスの客観的な評価と施策の優先順位をつけることによって、限られた財源と人員で、住民の幸福度の最大化を図るのが第一の目的
- ・しかし、幸福度を指標化することが目的ではない。
- ・何が幸福かについて、住民や企業等とともに考えること
すなわち幸福に向けた「運動」を展開したい
- ・「社会に貢献すること、自らの能力を活かすことが個人の幸福に寄与する」という認識を住民が共有できれば、少しずつの「分かち合い」と「思いやり」にあふれた地域社会が実現するかもしれない

困難ではあるが、有意義な挑戦に

- ・多様な価値観、ライフスタイルが存在する中で幸福度の研究はきわめて難しい
- ・現在、中間報告のとりまとめに向けて、各担当者が悩みながら、執筆している。
- ・おそらく各方面から、様々な指摘をいただくことになるが、そうした問題提起を通じて、荒川区の熱意が全国の自治体に伝わることを期待している。
- ・荒川区の取組みがきっかけとなって、全国で「幸福度」について研究し、行政に取り入れようとする動きが起こるようなことがあれば、それが荒川区職員としての「幸福」になるだろう。

ご清聴ありがとうございました。



分科会 3

- テーマ 地域における外国人親子の支援
- ねらい 現在、都内には多くの外国人親子が暮らしていますが、育児や子どもの教育について誰にも相談することができず、地域で孤立している方も少なくありません。そこで、地域の外国人の「親子、子育て、家庭、教育」等の支援をしている実践者から最新の状況等を報告いただくとともに、参加者の皆さまとこれらの問題点と今後の課題を探ります。
- ファシリテーター 川村千鶴子（大東文化大学教授）
- パネリスト 荒明美奈子（町田国際交流センター 日本語支援ボランティア）
石原 弘子（多言語育児情報誌を作る会 代表者）
善元 幸夫（日本語学級研究会 元大久保小学校教諭）
- 参加者数 39名

（１）荒明 美奈子さん

（町田国際交流センター 日本語教室部会長）

①町田市の状況

- ・神奈川県相模原市に程近く、そこからサポートを受けにくる人も多い。
- ・町田市内で、親子で参加できる日本語教室はークラスである。
→参加できるのは1歳半以上の子どもである。

②子どもが1歳半未満の母親の問題点

- ・出産のための日本語学習の中断
- ・家での孤立化（子どもと二人きりのストレス）
- ・相談相手がない ・異国での育児 ・情報の入手が困難
など

③親子教室発足の経緯

- ・1998年に町田国際協会が設立（現 町田市文化・国際交流財団町田国際交流センター）され、小中学生を対象とした日本語・教科学習支援が行われるようになった。
- ・2007年から、以下に示す問題点を受け、子どもをそばにおいて勉強できる環境を模索し始めた。
- ・2008年に、小中学生対象のクラスと分離し、親子教室を発足した。



④親子教室発足の際の問題点とその解決法

- ・子どものケアは誰がするか …全ての参加者（スタッフ、母親）全体でみる。
- ・学習に集中できるか …会話をしながら学ぶという方法をとれば可能。
- ・場所はどこで行うか …町田国際交流センターの学習室を利用する。

⑤親子教室で行われていること(対象:1歳半未満の子どもをもつ母親)

- ・日本語支援
- ・育児についての情報交換および提供
- ・居場所作り

＊見えてきたもの ⇒ **身近な情報がほしい** (ex. 育児、日本の習慣)

⑥今後の課題

- ・外部機関とのネットワーク ・子どもへの日本語をどうするか
- ・出産が近い母親へのケア（参加者同士の交流）
- ・若いボランティアの参加（現在は50歳以上がほとんど）
- ・子育てについての勉強会

（２）石原 弘子さん

（多言語育児情報誌を作る会 代表者）

『発見、私たちの役割：情報提供と母語がつかえる場の提供』

①「にほんごの会くれよん・子どもといっしょ活動の会」（2000年～）

- ・外国人も日本人も子どもを連れて参加できる。
- （子どもは生きた教材にもなるため、一緒の方がよい。）

<課題>

- ・子どもは安心できるが、会場が狭く、動き回る子と赤ちゃんが一緒にいると危ない。
- ・サポーターが少なく、参加者が多くなると子どもの見守りが大変。
- ・母親に必要な情報が少ない。

（日本人親子も同様の問題を抱えている）

②「多言語育児情報誌を作る会」（2001年～）

- …情報伝達ルート必要性・居場所作り
- ・多言語育児情報誌『目黒でたのしく子育てを』
（日、英、中、韓）
- ・民間、行政双方の情報が必要とされ、目黒区との
協働事業により作成。
- ・小数部数、経費をかけず、毎年発行している。



- ・地域の子育てグループへの参加を目指す。 …必要な人に届けることが重要。
- ・どのような情報が必要かについて、母親へのアンケートを実施。

その結果、最も多かったのは、「友だちを作りたいが、どこに行けばよいか」であった。

③「多言語絵本の会 RAINBOW」(2006年～) …母語保持の大切さ

- ・母親の母語が軽視されている。(ex. 子どもに継承しない、公の場で話させない)
…家の中の問題とだけ考えられているため
⇒公の場でサポートすればよいのではないか、ということから発足

<活動状況>

- ・図書館において年に9～10回、日本語ともう1言語の交互読みでの読み聞かせ
- ・「外国語でもよめる0歳からの絵本」リスト作成
- ・目黒区子ども条例の絵本「すごいよ ねずみくん」を6言語に翻訳(会場で本を紹介)

(3) 善元 幸夫さん

(日本語学級研究会 元大久保小学校教諭)

①親子の問題(挙げられた具体例)

- ・家族の中に、日本語を話せない親と、母語を忘れた子がいる。
…親のことを恥ずかしく思い、隠すようになる。
- ・例1: 母親の母国の食べ物用と日本の食べ物用の冷蔵庫を分けている。
母親は、周りの家族に聞かれないよう気を遣い、ヘッドフォンで母国の音楽を聴く。
…子どもは、母親の母国、母文化を卑下するようになってしまう。

②アイデンティティを保持することの大切さ(=母語も含め自分の文化を大切にすること)

- ・例2: 残留孤児が日本に来た際、「日本に来たら日本語を話せ」「中国人と付き合うな」と善意で言っていた。
…その家族の子どもは、自分の意思で来たわけではないのに、今までのルーツを奪われた。
- ・例3: 日本の生活に基盤がなく、どこにも根をおろしていないため、どう生きたらよいかわからなくなってしまった。
- ・例4: 肌が黒いことによる差別があることから、「手が汚れてるから、(代わりに) おやつ配って」と他の子に頼んだ。
- ・例5: 日本に来て、同じ出身国の子と話をしたら「いい気持だった」。
…子どもの自尊心、人格形成と関わっている。



これらの例のように、子どもが自分の気持ちを言葉で表現できるよう、子どもの側に立った日本語教育が必要である。

「母語がしっかりしていれば、日本語も伸びていく」というのが現在の考え方である。子どもが母文化を馬鹿にされたら、注意するのではなく、母文化を学び直し、出会うことの面白さを知ることが重要である。

ある国の文化を学ぶときには、日本人を含むいろいろな国の子が交わって行うことがよい。

（４）総括

川村 千鶴子さん （大東文化大学教授）

現在日本語指導を必要とする子どもは 3 万 3500 人で年々増加の上、そのうち 2 割の子はサポートを受けていない。さらに、進学率は減少し、「未定・その他」が増加している。

- ・アイデンティティの揺らぎに気づき、理解を示すことが重要である。
- ・保護者には、どの言語を使用し、どのような文化的環境の中で、どのような価値観を持って育てていくべきか養育者としての責任と指針が必要となる。
- ・母語教育に自治体がお金を出すということの重要性。



（５）質疑応答

計 7 名の方からの質問あり。



資料

町田国際交流センター 日本語教室 親子クラス

日本語教室部会長

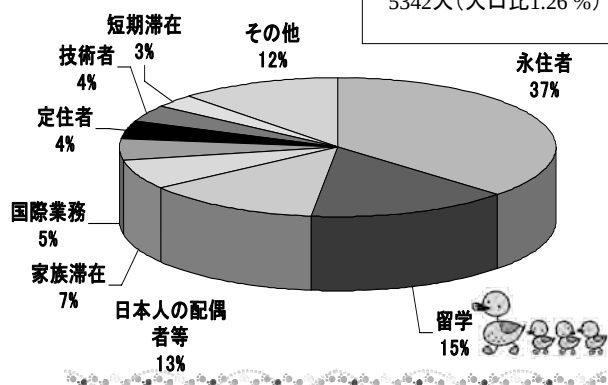
荒明 美奈子



在留資格別外国人登録者

外国人登録者

5342人(人口比1.26%)



町田国際交流センター日本語教室部会

1998年 町田国際協会設立
(現 町田市文化・国際交流財団町田国際交流センター)

1998 生活部会の1部門として発足

2004 生活部会から日本語教室部会として独立

2008 子供教室を分離



町田国際交流センター日本語教室

教室	時間	保育
国際交流センター内	月曜日 午後	
	火曜日 午前	○
	火曜日 夜	
	木曜日 午前	
	金曜日 午前	
	金曜日 午後	○
	金曜日 夜	
	土曜日 午前	



子どもが1歳半未満の母親の問題点

出産のために日本語学習の中断
家でのひとりぼっち(孤立化)

(子どもと二人のストレス)

話(相談)相手がいない

異国での育児の不安

情報の入手が困難

などなど



現 状

町田市内で、親子で参加できる日本語教室はークラスある。



しかし、参加できるのは1才半以上の子どもである。



子ども(乳幼児)と一緒に日本語教室はできるか？

子どものケアはだれがする？

学習に集中できるか？

場所はどこで？



親子教室の発足 2008年5月

- ・子どもが1歳半未満の母親の日本語支援
- ・育児についての情報交換および提供
公的情報、地域情報(遊び場など)
歌、遊び、習慣など
- ・一人ではないこと 仲間がいる！
- ・家の中での親子二人でのストレス解消



申し込み者一覧

スリランカ	6ヶ月 男	韓国	15ヶ月 女
スリランカ	7ヶ月 男	中国	12ヶ月 女
中国	3ヶ月 女	中国	6ヶ月 女
インドネシア	4ヶ月 女	インド	14ヶ月 女
韓国	12ヶ月 男	中国	11ヶ月 女
台湾	13ヶ月 男	中国	5ヶ月 女
台湾	3ヶ月 男	中国	4ヶ月 女
韓国	12ヶ月 男	ベトナム	11ヶ月 男
韓国	12ヶ月 男	韓国	5ヶ月 女

* 国際結婚



みえてきたもの→身近な情報がほしい

育児についての身近な情報

お茶、豆腐、着る物、安い店

日本の習慣

パートナーの実家への土産は何？

家のカビ対策

遊び場



MCIF親子日本語教室 申込書 Application Form

氏名(漢字) [redacted] 国籍 中国 性別 男 ☐ 女 ☐

子どもの氏名 [redacted] 子どもの年齢 1歳半 性別 男 ☐ 女 ☐

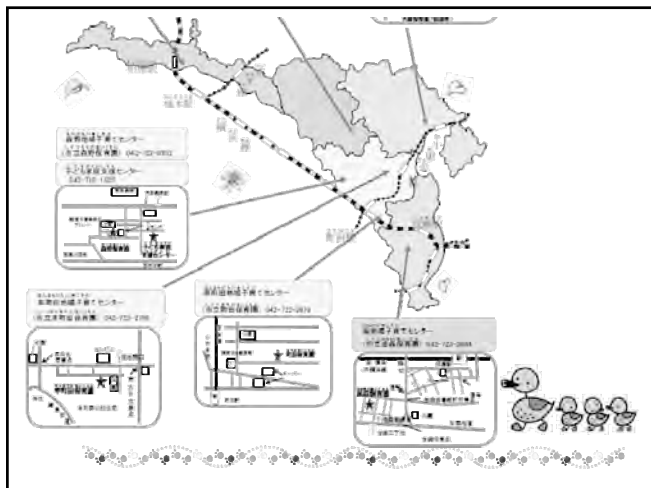
住所 [redacted] 電話番号 [redacted] 来日時期 2008.4

日本語レベル ☐入門 ☐初級 ☐中級 ☐上級

自己紹介 Please introduce yourself. 日本語を勉強して 2年くらい

自己紹介 Please introduce yourself. I want to learn how to take care of my kids in Japanese.

MCIF使用欄 Office Use Only



今後の展望



- ・日本の歌や手遊びの導入
- ・絵本をつかって読む力をつける
- ・自分のこどもへの読み聞かせ
- ・地域子ども支援センターなどへの参加



今後の課題

- ・外部機関とのネットワーク
保健センター、育児相談員、小児科医 など
- ・子どもへの日本語はどうする？
- ・出産が近い母親(?)へのケアー
- ・若いボランティアの参加
- ・子育てについての勉強会



発見、私たちの役割：情報提供と母語がつかえる場の提供

目黒区 石原弘子

1) にほんごの会くれよん・子どもといっしょ活動の会

<http://www006.upp.so-net.ne.jp/crayons/>

- ・ 2000 年 4 月発足
- ・ 中目黒スクエア9階、
男女平等・共同参画センター
保育室と研修室
- ・ 毎週木曜日 10:00-11:30
- ・ 毎回 参加者全員 100 円
- ・ 外国人も日本人も、
子どもを連れて参加できる
- ・ 会場が狭い
- ・ 参加者が多くなると、子どもの見守りが問題



2) 多言語育児情報誌を作る会

<http://www006.upp.so-net.ne.jp/kosodate/>

- ・ 2001 年 5 月発足
- ・ 多言語育児情報誌「目黒でたのしく子育てを」
初版-2002 年、更新版-2005 年、新版-2006 年、2008 年版、2009 年版、2010 年版
- ・ 内容：
 1. 緊急のとき
 2. 病気の時
 3. 異文化と相談
 4. 友だちをつくる
 5. 子どもといっしょに行きたいところ
 6. 日本で出産
 7. 区役所のサービス
 8. 子どもの健康
 9. 保育施設
 10. 教育
 11. その他の役立ち情報
- ・ 体裁：196 頁～198 頁 簡易印刷、簡易製本
- ・ 日本語と対訳で、英語、中国語、韓国語の 3 種類
- ・ 2011 年版：目黒区との協働事業 A4サイズ` 4 言語併記
- ・ 民間は版下作成まで。行政は印刷、製本、配布。
- ・ 少数部数、経費をかけない、毎年発行
- ・ 地域の子育てグループへの参加をめざす



3) 多言語絵本の会 RAINBOW

<http://www006.upp.so-net.ne.jp/ehon-rainbow/>

- ・ 2006 年 2 月発足
- ・ 目黒区立八雲中央図書館おはなし会
年に 9－10 回、日本語ともう 1 言語の交互読みで読みきかせをしている。
- ・ 2008 年 4 月 「外国語でもよめる 0 歳からの絵本」リストを作成
保健センターで配布
- ・ 小学校の異文化理解教育事業に協力
2009 年度 7 校 14 学年 29 クラスを訪問
2010 年度 9 校 9 学年 20 クラスを訪問
- ・ 目黒区子ども条例のえほん「すごいよ ねずみくん」を 6 言語に翻訳
英語、中国語、韓国語、インドネシア語、スペイン語、ポルトガル語
これらを、HP 上で読めるようにした。
来年は、聴けるようにする。
- ・ 未翻訳の絵本を翻訳して、学校や図書館で使っている

使った本の例（他にたくさんあります）

韓国語	しろいはうさぎ	英語	もりのなか
	ふわふわくもパン		さんびきのやぎのがらがらどん
	ねずみくんのチョッキ		はなをくんくん
	ソリちゃんのチュソク		ベーコンわすれちゃだめよ
中国語	あずきがゆばあさんとトラ	ロシア語・ キルギス語	おつきさまとおんなのこ
	トラばば	ポルトガル語	フリッチス
	安さんの種	スペイン語	とりかえっこ
	ぐりとぐら	イタリア語	はらぺこあおむし
	団欒	インドネシア語	なんのあしあとかな
タイ語	バツタがぴよんぴよん	フランス語	おっちょこさんのさがしもの
	こんにちは	ドイツ語	かばくんのふね
	みんなうんち	タガログ語	ピランドクとわに

少し、アルバムをみてください。

<追加情報>

- 文化庁委託事業「にほんごボランティア実践的研修講座『教える』から『ともに学ぶ』へ」を、今年度、6 月から 2 月まで行いました。
- 中国語の発音から引く日本語漢字読み方ハンドブック(332 頁の辞典)を、使ってくださる方に、カンパ 500 円で差し上げます。連絡先として、上記の HP に電話番号を記載しています。
大阪のにほんごサポートひまわり会を主宰している齋藤裕子さんが、日本語の漢字で困っている中国の方のために作りました。

4. 友だちをつくる

- 4.1 友だちがほしい
- 4.2 日本語で話してみよう
- 4.3 ボランティア日本語教室と日本語学校
- 4.4 親子で参加できるボランティアグループ
- 4.5 子育てカフェ
- 4.6 予約なしで行けるところ
- 4.7 予約が必要なおとところ
- 4.8 児童館リスト



4. Making Friends

- 4.1 Comments from Some Mothers
- 4.2 Let's Speak Japanese
- 4.3 Japanese Volunteer Classes & Schools
- 4.4 Volunteer Groups for Mothers & Kids
- 4.5 Café for Mothers & Kids
- 4.6 Where to Play (without reservation)
- 4.7 Where to Play (with reservation)
- 4.8 List of Children's Halls

4.1 友だちがほしい



★ 子どものことばの発達が遅いので、心配だった。どこに行けば、子どもに友だちを見つけれられるのかわからなかった。
中国のお母さん

★ 子どもを連れて行けるところがわからなかったの、ずっと家にいてさみしかった。
韓国のお母さん

★ 日本語が上手じゃなかったの、説明したくて英語を使ったら、日本人のお母さんはずっと向こうに行ってしまった。
韓国のお母さん

★ ほかのお母さんと出会える場所を教えてください。
アルメニアのお母さんほか多数

★ 話しかけられても、内容が、まだそんなに理解できないので、それが不安。
台湾のお母さん

★ 子どものためにも、自分のためにも、同じくらいの年齢の親子と友だちになりたい。イギリスのお母さん

★ 子どものためのイベントは、どこにきけばわかるのか知りたい。
アメリカのお母さん

★ ちょっと子どもが遊べる公園、おもちゃがそろっている児童館など、子どもが喜ぶ施設がありますよ。思いきって出かけてみましょう。同じような年の子どもがいたら、声をかけてみましょう。あなたも、子どもも楽しくなりますよ。



インドのお母さん

4.1 Comments from Some Mothers



★ I was worried since my child's speaking ability was poor. I didn't know where to find a place to make friends for her.

Chinese mother

★ Because I didn't know where to take my child to play, I stayed at home. I felt lonely.

Korean mother

★ Because I couldn't speak Japanese well, I tried to explain in English to a Japanese mother. But she went away.

Korean mother

★ I want to know where to meet other non-Japanese mothers.

Armenian mother & many others

★ I feel uneasy when others talk to me in Japanese because I don't fully understand.

Taiwanese mother

★ For both me and my child, I want to make friends with mothers who have children of same age with my child.

English mother

★ I want to know where to ask for events for children.

American mother

★ There are places your child can have fun: play parks and children's hall (Jido-kan) with lots of toys. You can go out for these places with your children! If you find some children who are about same age as yours, don't hesitate to talk to them. You and your child should have fun.



Indian mother

4.交朋友

- 4.1 想要交朋友
- 4.2 大家一起说日语
- 4.3 志愿者组织的日语教室、日语学校
- 4.4 可带孩子参加的志愿者团体
- 4.5 养儿育女咖啡
- 4.6 无需预约的游乐场所
- 4.7 需要预约的游乐场所
- 4.8 儿童馆总汇



4. 친구 만들기

- 4.1 친구가 필요해요
- 4.2 일본어로 말해봅시다
- 4.3 볼란티어와 함께하는
일본어 교실과 일본어 학교
- 4.4 모자가 참가할 수 있는
자원봉사단체
- 4.5 육아 카페
- 4.6 예약없이 갈 수 있는 곳
- 4.7 예약이 필요한 곳
- 4.8 아동회관 리스트

4.1 想要交朋友



★ 孩子学说话学得很慢，这让我十分担心，到哪儿才能让孩子交到一些朋友呢？

来自中国母亲

★ 不知道可以带孩子一同前往的地方，所以只能一直待在家中，感到很寂寞。

来自韩国母亲

★ 因为日语不好，所以想用英文交流一下。可日本的孩子妈妈一听到我说英文就马上走开了。

来自韩国母亲

★ 想知道可以和其他孩子妈妈交流的场所。

大多来自亚美尼亚等国家的母亲

★ 别人和我说话时，我还不能很好地理解其谈话的内容，感到很不安。

来自台湾母亲

★ 为了孩子，也为了自己，我想同相近年龄的母子交朋友。

来自英国母亲

★ 我想知道向哪里咨询可以得到儿童活动的相关信息。

来自美国母亲

★ 其实有很多可以让孩子高兴的设施哦！例如，可供玩耍的公园、备有许多玩具的儿童馆等。现在就出去转一转吧，如果看到年龄相近的孩子，就和他们打一声招呼，您和您的孩子都会因此而快乐起来。

来自印度母亲



4.1 친구가 필요해요



★ 아이의 언어발달이 늦어서 걱정이었다. 어디를 가면 아이의 친구를 만들 수 있는지 잘 몰랐다.

중국 엄마

★ 아이를 데리고 갈만한 곳을 몰라서 계속 집에만 있어서 외로웠다.

한국엄마

★ 일본어를 잘 못해서 영어로 설명을 했더니, 일본인 엄마가 다른 쪽으로 가버렸다.

한국 엄마

★ 다른 엄마들과 만날 수 있는 장소를 가르쳐줬으면 좋겠다.

아르메니아 엄마 외 다수

★ 누가 말을 걸어도 아직 내용이 잘 이해가 안되어서 불안하다.

대만엄마

★ 아이를 위해서도 자신을 위해서도 같은 또래 사람들과 친구가 되고 싶다.

영국 엄마

★ 어린이를 위한 이벤트는 어디에 물으면 되는지 알고 싶다.

미국엄마

★ 아이가 잠시 놀 수 있는 공원, 장남감이 갖추어진 아동관 등, 아이가 좋아할만한 시설이 있어요. 용기를 내어 외출해 봅시다. 비슷한 또래의 아이가 있으면 먼저 말을 걸어 봅시다. 당신도, 아이도 즐거울 것입니다.



인도 엄마

国際化市民フォーラム

「地域における外国人親子の支援」

元新宿区立大久保小学校
日本語国際学級 善元幸夫

新宿で今起きていること

ーニューカマーの子どもたちと日本ー

- ・ 現在外国をルーツに持つ子供たちが急増している。子どもたちは日本でどう生きればいいのか。公教育の中で外国人教育の課題はなにか考えてみたい。

1.新宿区の中の外国人

1) あなたは誰と結婚しますか？

- ・ 今、日本人同士で結婚する人の数が減ってきている！
- ・ 「クイズ！国際結婚 第1位はどこの国？」

2) クイズ！新宿の外国人

「新宿に来る外国人の第4位はどこの国だろうか？」

2.新宿区の中の外国人

- ・ 棲み分けが進む新宿区
なぜ棲み分けが行われるのだろうか！
- ・ 全都の中で新宿になぜ集中するのか？
- ・ 差別落書き「朝鮮人業界追放！」「タイに帰れ！」

3.追い込まれていく子どもたち

- ・ 東京都の日本語学級
- ・ 新宿区のニューカマーの子どもたち

1) 新宿区立大久保小学校日本語国際学級の2人の子ども」

- ・ アイデンテイクライセス
 - ・ 民族差別で悩む子ども
 - ・ 放置される子ども

2) 教師は授業で何ができるのであろうか

中国・韓国の引揚げの子どもとニューカマーの子どもとの差異

4.授業「キムチは日本人に何を語るのか」

- ・ 日本人とキムチ ・ ぼくとキムチ（児童作文）・キムチの歴史・キムチと健康
- ・ キムチと沢庵 親が伝えるキムチの作り方

資料1 「キムチは日本人に何を語るのか」(初級用)

「私の出会った日本—キムチは日本人に何を伝えるか—」

1 児童の実態

1) 対象児童 入門期の4年生1名

R来日後6ヶ月たち日本語の会話などはかなりうまくできるようになってきた。しかし韓国についていやなことを言われ悩んでいた。日本語の上達には学習者の学習意欲が重要である。そこでRの言語理解度を考慮し、「キムチは日本人に何を語るのか」を作成した。その後この学習は日本語国際学級の児童にも自尊感情の形成をねらいとして学習した。

・学習者(初級・入門期)の言語の習得状況

(語彙数・750語%)

(読める漢字の数)

氏名	学年	来日期	語彙数	%	認知漢字数
R	4年				

*彙数(日本語検定4級の語彙)

・はじめて日本語を学習する人のために精選された750語(学校で使用する語彙は含めない)

*認知漢字数は指導要領の漢字で音・訓どちらかが読めればよいとした

実践事例2 校内研究授業 —子どもの作文を中心にして—

1. 授業「キムチは日本人に何を伝えるか」(R・9才の場合)

1) 目の前にいる子どもを視野に入れ日本語の教材を作る

国際化時代には様々な出会いがあるが、必ずしもいいものばかりではない。相手に対するちょっとした偏見や差別で、子どもたちは深く傷つき悩み、学習意欲が大きくそがれてしまう。Rが「身近な自分たちの故郷を再発見すること」ことで自身を取り戻し、自尊心をもち、興味・関心をもって学習できないかと考え、Rのために日本語学習の初級のテキストを作った。

韓国から来たRは、日本語学級で学んでいた。あるとき、彼がこんな作文を書いた。

(作文は四角囲い)

「日本にきたとき、ともたちにいじめられた。『かんこくじんばかやろう。』ぼくはとってもやたった。なんでそんなことをゆうのか？わかりませんでした。韓国じんきらいなのかな？ぼくはかんこくか大すきです。…日本語タイムのときお母さんがかんこくのたいこをたたきました。ぼくは韓国が大すきたからうれしかった。」(R 9才)

2) キムチの歴史・健康・文化など総合学習の視点で教材を作る

キムチの食文化に着目して作ったのが『キムチは日本人に何を伝えるか』である。一九八八年ソウル・オリンピックで選手村の公式メニューに認定されて以来、キムチは爆発的に世界に広がった。日本では昨年、食卓にのぼる漬物の第一位になった。またキムチはうまいだけでなく、優れた健康食品でもある。乳酸菌の含有率はタクワンの約四千倍。整腸作用のほかに、アスパラギン酸などによる疲労回復や体調を正常化する作用もある。このことを教材化した。Rに「なぜ日本人はキムチが好きになったのか」と尋ねると、楽しそうにこう書いた。

「・・・あまさがあって(キムチが)すきなのかな？それともかんこくがすきになったのかな？(ぼくは)おばあちゃん(ハルモニ)がからだにいいとゆってすきになったのかな？」(R 9才)

3) キムチは唐辛子と出会い世界的に有名な食品になった

元来、キムチにはトウガラシの辛さはない。トウガラシは、十五世紀のコロンブスのアメリカ大陸到達以来、「トウガラシの道」を経てペルーからヨーロッパへ、そして中国、日本、韓国にもたらされた。キムチはトウガラシと出会うことで塩分を減らすことができた。またトウガラシに含まれるカプサイシンは血行をよくするため、ダイエット食品といわれるまでになった。

Rは日本人のお父さんと韓国人のお母さんの間に生まれそのことでも悩んでいた。「物や人が出会うことで生活や文化が変わる」ということをRに伝え自尊感情を持つためにこの単元を作った。Rはキムチの学習のあと、安心したかのようにこう書いた。

キムチの学習は教え込みの授業ではない。教材で自ら考えるのである。
韓国と日本の両方の文化を受け入れて生きる。それはこの学習で彼が示した結論であった。彼はまたこのようにも述べている。

「キムチのべんきょうをしてぼくがわかるもんだいだから、こたえがでておもしろかったです。」(R 9才)

「にほんのおとうさんとかんこくのお母さんとであってぼくはうまれました。キムチとおなじです。だからぼくはかんにほんじん(韓日本人)です。いいものがいっぱいあるとおもいます。」(R 9才)

今、その後Rはクラスでキムチのレポートを自信を持って発表した。自分の安心できる居場所をみつけ出したのである。またそれは日本の子どもがRや韓国を知る良い機会ともなった。

資料 2

夫妻の国籍別にみた婚姻件数の年次推移

国籍 ¹⁾	昭和 45 年	50 年	55 年	60 年	平成 2 年	7 年	11 年	12 年	13 年	14 年
総数	1 029 405	941 628	774 702	735 850	722 138	791 888	762 028	798 138	799 999	757 331
夫妻とも日本	1 023 859	935 583	767 441	723 669	696 512	764 161	730 128	761 875	760 272	721 452
夫妻の一方が外国	5 546	6 045	7 261	12 181	25 626	27 727	31 900	36 263	39 727	35 879
夫日本・妻外国	2 108	3 222	4 386	7 738	20 026	20 787	24 272	28 326	31 972	27 957
妻日本・夫外国	3 438	2 823	2 875	4 443	5 600	6 940	7 628	7 937	7 755	7 922
夫の国籍										
韓国・朝鮮	1 386	1 554	1 651	2 525	2 721	2 842	2 499	2 509	2 477	2 379
中国	195	243	194	380	708	769	836	878	793	814
その他の国	286	395	405	662	1 080	1 514	2 237	2 239	2 286	2 407

資料 3 日本一「外国人」の多い町になった新宿区 柳原滋雄 FAN

日本の市区町村で最も外国人の多い地方自治体は、長年、大阪市生野区と決まっていた。変化が生じたのは2008年のことである。東京新宿区が生野区を上回ったからだ。この4年間の変化をデータで示すと次のようになる(いずれもその年の年末の数字＝人数)。

【2005年】 1位 生野区 3万3713 2位 浜松市 3万0154 3位 新宿区 2万7443
 【2006年】 1位 生野区 3万3081 2位 浜松市 3万2387 3位 新宿区 2万8756
 【2007年】 1位 生野区 3万2192 2位 新宿区 2万9986 3位 江戸川区2万2277
 【2008年】 1位 新宿区 3万1793 2位 生野区 3万1633 3位 江戸川区2万4003

2007年から浜松市が外れたのは、政令指定都市になって区単位で数字が出るようになったためだろう。大阪市生野区は在日コリアンの集住地域で、日本国籍を取る人が一定数いることと、高齢のため死亡した人々を含め、年々減っていることがわかる。一方の新宿区の場合、ニューカマーを中心とした韓国人(43%)、中国人(31%)で全体の4分の3を占めており、今後も増加傾向が予想され、現実には右肩上がりが増えていく。

日経がタ刊で連載を始めた「東京『オオクボ』に住んでみる」(4月10日付)によると、「新宿区の外国人登録者数は約3万5000人と東京23区で1位」とあるから、すでに1年余りで3000人増えている計算になる。法務省の統計は政令指定都市や東京23区の場合を区別で比較しているので、このような結果になるが、純粋に市単位で比較すれば、大阪市12万人は、やはりダントツ1位だ。ただし大阪市を東京23区と同じように区別で比較すると、冒頭の結果になるというわけだ。あまり知られていないことなのであえて書いてみた。

※ 新宿区の2010年3月1日時点の外国人登録者数は、3万4587人ということだった。(同区役所調べ)

国際化市民フォーラム in TOKYO

東京都国際交流委員会

平成23年2月19日 JICA地球ひろば

川村 千鶴子（大東文化大学）

人のライフサイクルと アイデンティティ

乳幼児期→思春期→青年期→成人期→壮年期→老年期
という生涯発達のプロセス。たとえば、乳幼児期においては、アイデンティティの基底になる「中核的自己感覚」が形成されるか否かが大切である。

思春期や青年期においては、自己アイデンティティが確立されるか否かが重要な課題である。

その後の成人期、壮年期、老年期においては、それぞれの時期に独自のアイデンティティの危機が訪れることが多いとしている。さらに空間的な広がりの中で形成され確立されていくので、さまざまな側面が生じることとなる。

資料：鍾幹八郎『アイデンティティとライフサイクル論』ナカニシヤ出版

アイデンティティ (Identity)

自己の存在証明であり、自分がおかれたライフステージでの自分なりの生き方や価値観でもある。

アイデンティティは社会的な多様な側面、つまり国家、文化、民族などの集団への帰属意識をも含んでいるが、個人の自己意識や自我の確立との関連とその帰属意識に混乱や葛藤が生じたときにアイデンティティの揺らぎが生じる。

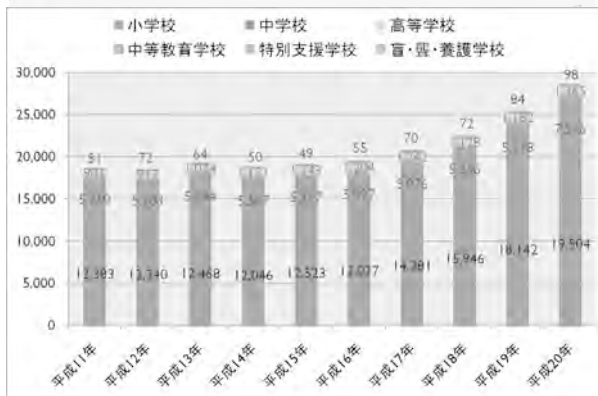
あるいは喪失の問題が浮上することさえある。

資料)『アイデンティティとライフサイクル論』鍾幹八郎著

外国籍が7割を超える保育園①



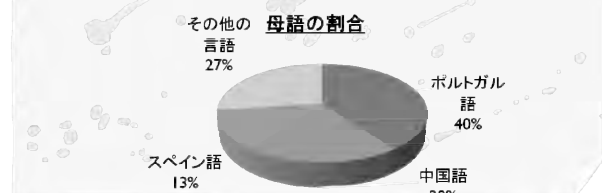
日本語指導が必要な児童生徒数



資料)文部科学省

外国籍の児童生徒は10万人以上

- 外国籍の児童生徒数: 7万5000人
- うち、日本語の指導が必要な外国人生徒数: 2万8500人
- 日本国籍を有し、外国生まれ、日本生まれでも生活言語が外国語であるために日本語の指導が必要な児童生徒数: 約5000人
- 合計約3万3500人が日本語指導を必要としている。



資料)「共に学ぶ -外国にルーツを持つ子どもたち」21世紀教育研究所

2割の子ども達が日本語指導を受けていない現実

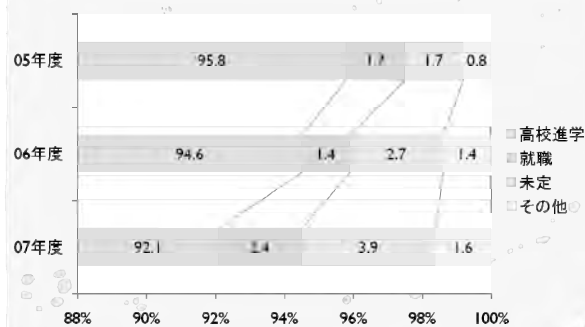
- 日本語指導が必要な外国人児童生徒約3万人のうち、実際に指導を受けているのが約2万5000人のみ。
- 残りの約4000人は日本語指導を受けていない状況。



この4000人の子どもたちは、
どう過ごしているのだろうか？

資料)「共に学ぶ -外国にルーツを持つ子どもたち」21世紀教育研究所

外国籍生徒の進学意向



資料)『東京都の外国籍生徒の教育実態に関する調査報告』多文化共生センター

母語保持教育の必要性

- 1994年:子どもの権利条約(「児童の権利に関する条約」)を日本が批准した。
- 第30条:民族的少数者・先住民の子どもの(自己の文化・宗教・言語)を享受・実践・使用する権利は否定されない。
- 子どもの母語・母文化を維持することは、その言語で想像(イメージ)したり、思考能力を伸ばすことができる。

外国籍が7割を超える保育園②



母語と母文化

養育者にとって一番こちよく表現できる言語で語りかける。新しい社会に出現したわが子に、生きる知恵や文化の営みを伝えていく。語りかけることばは、親の考え方や文化を表わすとともに、ひとつの体系をなした言語であるという側面をもつ。子どもは養育者の考え方、文化に浸ることによって、提携をなす一つの言語としての「母語」を学んでゆく。

資料)『多文化共生にひらく対話』倉八順子著

外国籍が7割を超える保育園③



母語とは何か

多文化空間では、どの言語を使用し、どのような文化的環境の中で、どのような価値観をもって育てていくべきか、養育者としての責任と教育の指針を問われることになる。

母語 (mother tongue) とは、人が生まれて初めて接し、使用することばである。言語はこころの拠り所であり、アイデンティティの形成や思考の基本を形成するものとなって継承されていくもの。

資料)『多文化共生にひらく対話』倉八順子著

外国籍が7割を超える保育園④



子どもにとっての

最善の利益 (the best interest)

について考えることは、異文化間における文化的感受性を育むことにもなる。

言語を初めとして文化もライフスタイルも、多文化共生社会にあって、人から強制されたり付与されるものではなくみずから選択し、ともに創造していくもの。共に生きるということは選択の自由の幅を広げる努力でもある。

共に子どもを育てる



多文化教育を開く「異なり」の断面

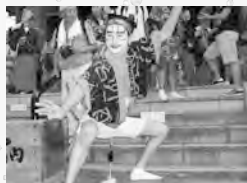
- 外在化された異文化を、教師が学習者へ知識として一方的に教えるのではなく、多様な価値観の存在を日常の中で学び、その学びが成長に繋がる。
- 日常生活で共感を伴いながら異文化接触が行われ、言語や家庭環境の差異を生活の中で発見できる。
- 差異は、時には摩擦や葛藤を生じさせ、人は摩擦や葛藤を通して理解とは何かを学ぶことができる。このような保育園・学校において、差異、つまり「異なり」の断面が多様であり、葛藤や摩擦を通して、多文化空間の多面性を体験的に学んで成長する子どもたちの姿があった。

資料：川村千鶴子『多文化教育を拓く』明石書店

飯田橋のホテル内のお祭り



共に憩う街 神楽坂の 阿波踊り



大久保地区の秋祭り 共に街をつくる



高度人材の受け入れ



難民と共に生きる



大東文化大学において



難民旅行証明書

無国籍者

世界人権宣言（1948年）

すべての人は国籍をもつ権利を有する。

何人も恣意的に国籍を奪われたり、国籍を変更する権利を奪われない。

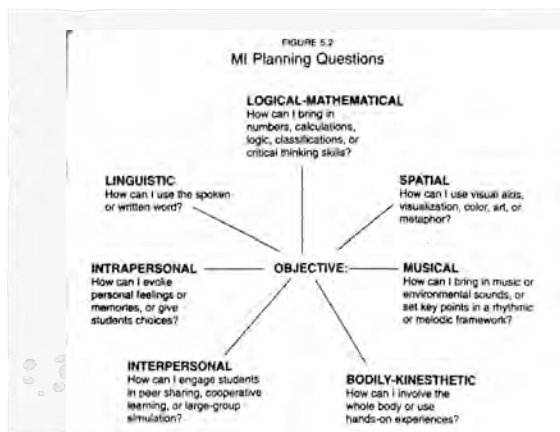
「市民的及び政治的権利にかかる国際規約」、
「児童の権利に関する条約」も国籍をもつことが
基本的人権であることを確認している。

高田馬場に10件のビルマ料理店



お茶の葉の「サラダ」





資料) "Multiple Intelligences In The Classroom," Armstrong 著

マルチプル・インテリジェンス

人間の生得的な 9 つの知能のことを指す。
言語的の知性 (Linguistic)、論理・数学の知性 (Logical-Mathematical)、空間の知性 (Spatial)、身体・運動の知性 (Bodily-Kinaesthetic)、音楽的知性 (Musical)、対人関係の知性 (Interpersonal) と自律と内省の知性 (Intrapersonal)、自然愛好・自然適応の知性、倫理哲学的知性などの知能を指している。それぞれすべての知能が重要である。

資料) 『創造する対話力』川村千鶴子 著

人の「異なり」を考える

ご清聴ありがとうございました。

分科会 4

- テーマ 「わかる日本語」のつくり方
- ねらい 午前中の分科会での付議論を踏まえて、「わかる日本語」とはどういうものかをワークショップ形式で実際に体験します。簡単な説明を行った後、行政等から出た災害情報や生活に必要な情報を取り上げ、ほとんどの日本語が母語でない方々に「わかる」日本語に翻訳します。さらに、外国人協力者に読んでもらい、できた文が実際に「わかる」かを検証します。
- 司会 大友 正弘（一般財団法人港区国際交流協会常務理事）
- 講師 中山真理子（中野区国際交流協会専門員 亜細亜大学講師）
- 外国人協力者 アンドリュー・アンドリュー（中野区国際交流協会 日本語クラス学習者）
ベロニカ・リエスコ（中野区国際交流協会 日本語クラス学習者）
ジェyson・ロス（中野区国際交流協会 日本語クラス学習者）
- 参加者数 48名

（１）中山真理子さん

（中野区国際交流協会専門員 亜細亜大学講師）

①情報伝達の条件とは？

- ・行政から一方的ではない（相互的に情報伝達が行われる）
 - ・正確に、端的に、分かりやすく伝える
 - ・記憶しやすい、伝えやすい内容
- これらを踏まえて行動に結びつく

②情報伝達での中野方式

- ・多言語化と分かる日本語：英語・中国語・韓国語→タガログ・フィリピン→スペイン…
＊ただし人材不足が問題
- ・多言語化でもあり、分かる日本語でもある
- ・多言語化と分かる日本語の二者択一か？
- ・分かる日本語から分かる他言語へ ＊中野方式：日本語→優しい日本語→他言語化

③中野方式から見えてきたもの

- ・外国人専門家相談会から見えたもの・外国籍住民の2/3が通訳・翻訳者へ
- ・緊急時に要支援者から支援者へ・広がる経費の歯止めには？
- ・あらゆる世代に分かる・メジャー言語が第2、第3言語での住民でも分かる
- ・あらゆる社会階層に分かる・多言語化の限界を克服 ＊分かる日本語の通訳の存在

④多言語化の限界

- ・定住化の促進・広がるマイナー言語に対する対応が難しい
- ・主要言語の理解の限界・際限なく広がる経費
- ・翻訳された情報は正確さのチェック機能を持ちにくい

⑤中野区国際交流協会における具体的な取り組み

- ・日本語ボランティア養成講座での指導法の徹底
- ・国・都・区・協会からの必要な用法は中野方式で
- ・イベントや日常活動で、ボランティア・外国人・職員が
- ・中野区の総合防災訓練で通訳・翻訳・東京都の総合防災訓練後方支援
- ・外国人専門家相談会・中野生涯学習大学「国際理解ゼミ」でわかる日本語

1：外国の人と話そう 2：外国の人がわかる日本語に翻訳しよう

⑥わかる日本語の条件とは？

- ・簡単な言葉、漢字、構造（可能な限り日本語能力試験 N5 程度で）
- ・連体修飾・接続助詞を使わない *言語の体裁よりも情報を題字に
- ・語尾をはっきり、曖昧さを残さない・尊敬語・謙譲語を使わず、「です・ます」を使う
- ・省略せず主語・目的語をきちんと入れる*日本語は「誰が？」というのが抜けている
- ・できるだけ短い文（擬音語・擬態語は使わない）
- ・ルビを振る・不必要な情報は省く・外来語は用いない。元の意味/発音と異なる事がある
- ・簡単な外来語に言い換える・「分かち書き」にする



*参加者はグループ1～6に分かれて課題を行う

（2）グループワーク 課題1 地震

地震はいつ起こるか予測できないものです。起きた時は、どうしたらいいのか普段から心がけ、記載されている内容をよく読み、敏速な行動がとれるよう備えておきましょう。区では、主に区内の小・中学校など50ヶ所を「避難所」に指定し、被災者の収容、負傷者の救護、物資の配布、給水、給食などを行います。

○外国人によるフィードバック

グループ1：「お知らせ」「区」「避難所」「けがをした人」「困った人」「助けます」「配ってい

ます」という単語が分からない。

グループ2：「へたら」「避難所」「逃げる所」「けが」「てあて」「毛布」「配ります」という単語が分からない。

グループ3：「安全な場所」という単語が分からない。

グループ4：「次のことに」「避難所」「できること」という単語が分からない。

グループ5：「区」「避難所」「着るもの」「壊れた」という単語が分からない。

グループ6：「逃げる」「避難所」という単語が分からない。

講師の文章：「避難所」「怪我」「壊れた」という単語が分からない。

○総括

「避難所」という概念や「怪我」「壊れた」という緊急時の用語も外国人には理解するのが難しい。



（3）グループワーク 課題2 粗大ごみセンター

事前に申し込みの上、指定された枚数の中野区有料粗大ごみ処理券（粗大シール）を品物に貼って、収集日当日の朝8時までに出してください。中野区ホームページからインターネット申し込みもできます。

○外国人によるフィードバック

グループ1：「捨てる」「粗大ゴミ」「券」「つけます」という単語が分からない。

グループ2：「捨てる」「粗大ごみ」「券」という単語が分からない。

グループ3：「捨てる」「役所」という単語が分からない。

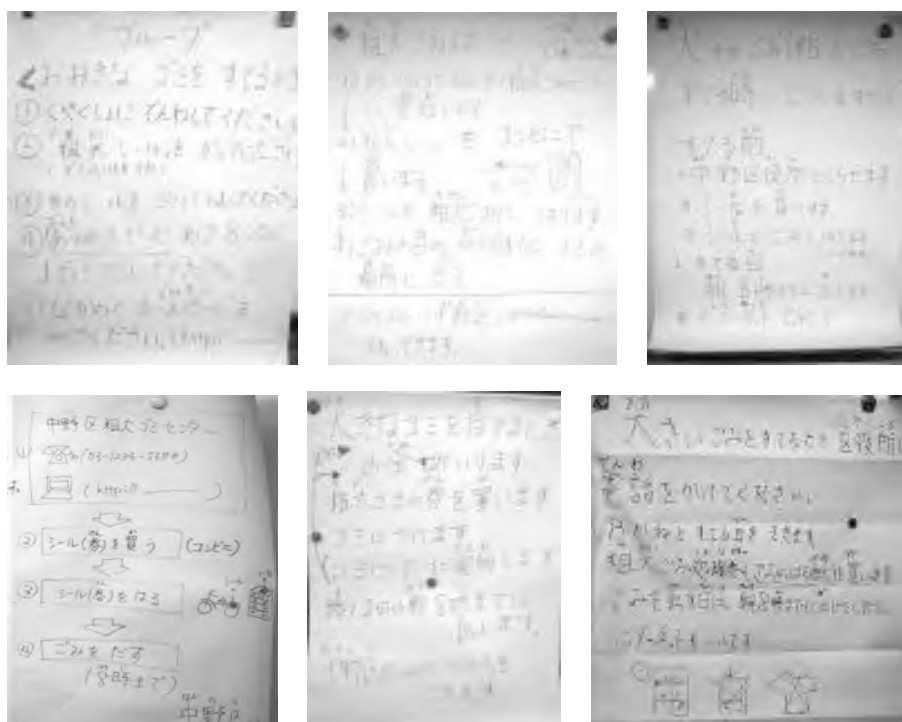
グループ4：「粗大ゴミ」という単語が分からない。

グループ5：「粗大ゴミ」「集める」という単語が分からない。

グループ6：「捨てる」「粗大ゴミ」「処理券」という単語が分からない。

○総括

難しい表現の際は絵をつけた方が良い。動詞が分からないと連体修飾の表現は外国人には分からない。



（４）グループワーク 課題３ 国民健康保険

国民健康保険は病気やけがに備えて、加入者が日頃から収入に応じて保険料を出し合い、医療費に当てるといふ相互扶養の制度です。職場の健康保険加入者、生活保護を受けている人以外で、中野区に住んでいる人すべての方が対象です。保険料は住民税額と世帯の加入者の人数をもとに計算し、決定します。保険料は加入した月から納めていただきます。

○外国人によるフィードバック

グループ1：「国民健康保険」「入れる人」「他の健康保険に入っている人」「生活保護の人」

「保険料」「決めます」「保険に入った」「月」が分からない。

グループ2：「保険」「給料」という単語がわからない。

グループ3：「健康保険」「毎月」という単語がわからない。

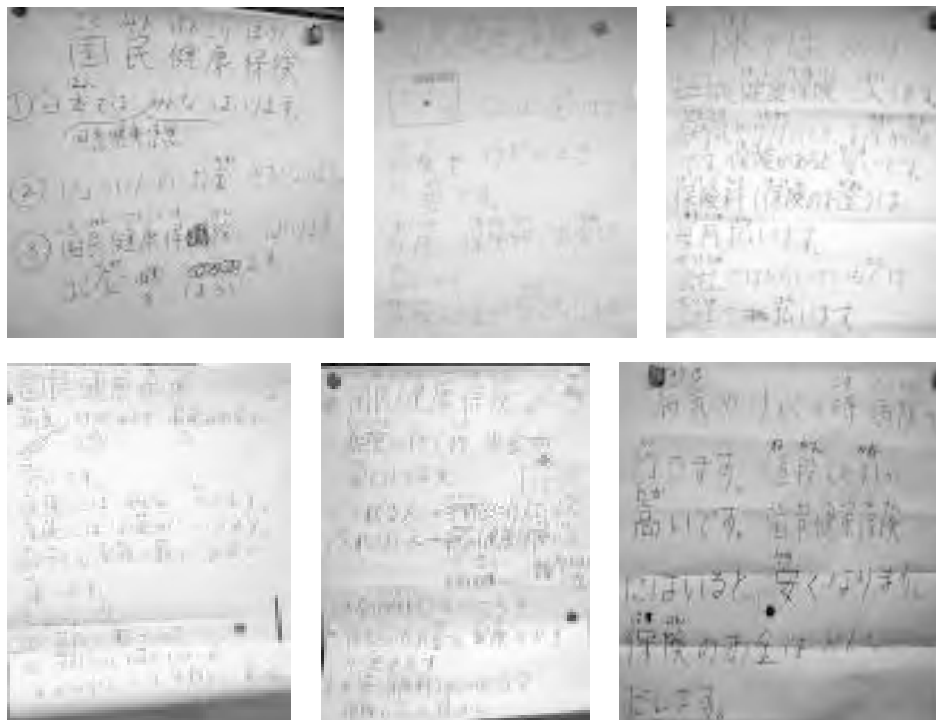
グループ4：「国民健康保険証」「怪我」という単語がわからない。

グループ5：単語に関しては問題なし。

グループ6：単語に関しては問題なし。

○総括

日本人が使わないいい回しでも外国人にとっては普通に理解できることがある。



(5) 講師によるまとめ

- ・12月の催事よりもレベルが高い
- ・普段外国人と接している人のほうが優しい日本語に変換しやすい。
- ・努力目標で終わってしまうのではないかと心配
- ・人それぞれニーズは違うが、出来る限り「優しい日本語」で情報難民をなくしたい。
- ・N5 というレベルが大事
- ・「国民健康保険」や「避難所」という単語は知らなければならないが、日常や教科書では使わないので、そういう単語を外国人に知らせてあげることが、助けるための第一歩。
- ・今日参加した外国人が理解できるような日本語を使っていきたい。

(6) 外国人による感想

- ・楽しかった
- ・面白かった
- ・楽しかったが、漢字が難しい。

資 料

国際化市民フォーラム in Tokyo

第4分科会

～ 「わかる日本語」の作り方 ～ ワークショップ

日本語が母語でない多くの方のために「わかる日本語」に翻訳してみてください。

【課題1】◇ 地震

地震はいつ起こるか予測できないものです。起きたときは、どうしたらいいのか普段から心がけ、記載されている内容をよく読み、迅速な行動が取れるよう備えておきましょう。区では、主に区内の小・中学校など50ヶ所を「避難所」に指定し、被災者の収容、負傷者の救護、物資の配布、給水、給食などを行います。

【課題2】◇ 粗大ごみセンター

事前に申し込みの上、指定された枚数の中野区有料粗大ごみ処理券（粗大シール）を品物に貼って、収集日当日の朝8時までに出してください。中野区ホームページからインターネット申し込みもできます。

【課題3】◇ 国民健康保険

国民健康保険は病気やけがに備えて、加入者が日ごろから収入に応じて保険料を出し合い、医療費に当てるという相互扶助の制度です。職場の健康保険加入者、生活保護を受けている人以外で、中野区に住んでいる人すべての方が対象です。保険料は住民税額と世帯の加入者の人数を基に計算し、決定します。保険料は加入した月から納めていただきます。

国際化市民フォーラム in Tokyo

第4分科会 ～「わかる日本語」の作り方～ ワークショップ 模範解答例

【課題文1】

地震は いつ 起きますか。わかりません。その 時、すぐ どう しますか。

下の ことを よ 読んで いつも かんが えて、じゅんび 準備して ください。区の 50の

しょうがっこう と ちゅうがくこう 「避難所」が あります。そこで、家が こわれた ひと

や けがの ひと を たす けます。そして、もの の 飲み物、た べもの を くれます。

【課題文2】

大きい ごみを す 捨てたいです。その時、センターに でんわ 電話を します。セン

ターの ひと は「粗大シール」の おかね と かず を おし えます。あなたは シール

を か 買って、ごみに つけます。センターの ひと が くる 日、あさ 朝 8時まで

に だ 出します。区の ホームページ、インターネット（日本語）で できます。

【課題文3】

びょうき や けがの とき、とても こま 困ります。ですから、いつも みんな で おかね

だ 出して、たす け 合います。それが こくみんけんこうほけん 国民健康保険です。皆、はい 入ります。でも、

もう しごと や かいしゃ で はい 入って いる ひと と はたら 働く ことが できない ひと

は はい 入りません。去年 きょねん いくら おかね を もらいましたか、かぞく 家族は なんにん 何人です

か。これで、かね を き 決めます。はい 入った つき から おかね を はら 払います。

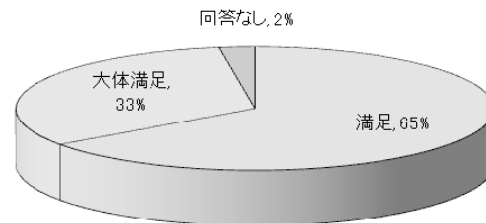
Ⅲ 国際化市民フォーラム in TOKYO アンケート結果

◎アンケート回収結果 83 名（参加者延 151 名） 回収率：55%

《満足度》

満 足 （54 名）

大体満足 （22 名）



《主な感想》

第1分科会

- ・ 外国人児童への日本語学習支援について、情報収集を行うとともに、災害時等の外国人への情報提供のあり方を学ぶため参加し、ヒントが得られた。
- ・ 日本国語研究所の飛び入りの森先生のお話しはその通りと思います。言語統制などの問題があることを大事にしなければならないとなれば、我々は話し言葉に徹することになってしまいます。市役所等の広報は型苦しい部分が存在するので、二流扱いとなれば一考を要することになるだろう。
- ・ やさしい日本語本当に必要な事だと思います。やさしく且つ、親切言葉が必要ですね。
- ・ 私にとって新しい視点が得られた。「わかる～」は外国人からの発信につながる。母語でも伝わらない人がある。日本人が「わかる～」を学習している。（中野区の例）など色々なとりくみを知ることができた。
- ・ 初めてこのようなフォーラムに参加して、いろいろな立場での取り組みや考え方を聞くことができて、今後のボランティア活動に大いに参考にすることができると感じました。ただし、「やさしい日本語」が一義的に決まるのではなく、誰のためか？基準は？など様々な困難があると認識している。「待ったなし」という現実もあり、「走りながら行動する」という内容が求められていることを痛感した。
- ・ 「わかる日本語」についての新しい考え方を今日、知ることが出来ました。国立国語研究所の森先生からご提言頂いたことは「わかる日本語」普及に向けて考えていかなければならないと感じました。言語学の専門家のお考えを聞いて良かったです。
- ・ 自分たちでやさしい日本語をつくるだけでなく、他の方々が作ったものを見ることができて興味深かった。同じ課題文に対してさまざまなアプローチがあることを体感し、今回のように、話合いながら、やさしい日本語に言い換えるプロセスが重要であると思った。
- ・ 「やさしい日本語」に書きかえる難しさを認識できた。
- ・ 「わかりやすい日本語」の作り方の作業は、なかなかおもしろかったです。ボランティアをしていく際に役立てていきたいと思っています。
- ・ 福生市発行の「外国人のための生活便利帳 やさしい日本語版」のような良い取りくみが実際行われていることがわかり、他の区でも是非行ってほしいと思いましたし、多言語社会の中で「やさしい日本語」「わかりやすい日本語」の普及の必要性を強く感じましたので。また、国立国語研究所の森先生のお話が大変参考になりました。

- ・ 実際に外国の方に読んでいただけるのは、とても勉強になりました。「やさしい日本語」については自身の活動の中でも取り上げることがあるので参考にしたいと思います。
- ・ 「わかりやすい日本語」について改めて考えるきっかけになった。外国人が多く住む東京では市民レベルでこのようなことを考える必要があると思う。
- ・ 「わかる日本語」について誤解している部分もあったが、理解が深まりました。より住民の方のサービス向上につながる取り組みについて考えていくきっかけになりました。
- ・ 国立国語研究所の森氏のお話がとてもためになった。「やさしい日本語」「わかる日本語」に取り組むにあたっての姿勢がわかりました。
- ・ 元慶応大学の3名の方々の活動が具体的でとても分かりやすかったです。また、誰にとってわかりやすいのか？わかりやすいとは何なのか？ということは、日々意識しようと思います。
- ・ N4、N5の言語、漢字の一覧表が頂ければ有難い。
- ・ 国際化の中でいかに「わかる日本語」を使えるか常に考えていきたい問題です。

第2分科会

- ・ 分科会2では、「幸せとは何か？」ということを考えさせられました。ブータンのことが良く分かりました。
- ・ シニア海外ボランティア活動を行う上で非常に参考となりました。
- ・ 午前の部（ブータン）は非常に興味深くお話を聞かせてもらうことができた。世界で活躍されている方々のお話を聞けて良かった。
- ・ 「ブータン」、「幸福度」という耳慣れないキーワードに魅かれて参加しましたが、期待していた以上に新鮮な視点を養う（知る）ことができました。パネリストの方の属性が多様だったので、2つのキーワードを多角的に見られた為だと思います。行政の方々が幸せをプロジェクト化するのは活気で素晴らしいです。ただ、今の日本の中にもブータン的に生きている人は結構いると思います。日本＝競争社会、ブータン＝ゆとり社会の安易な二元化は良くないのではないのでしょうか？ JICAに来るような人にはブータン的な人が少ないだけかもしれません。
- ・ 短時間なだけに、内容が凝縮されていて分かりやすく聞く事ができました。パネリストのお話もジャンルが様々で、飽きる事なく聞けました。
- ・ ブータンのGNHを始点として、幸せとは何なのかという事を多角的に考える機会となりました。J.E.E.Fや荒川区等、様々な取り組みが行われていることを知り、視野が広がりました。
- ・ 2の「ブータンからの～」に参加したが、ブータンから学ぶものが多いと感じたと同時に外から関わることで相手（ブータン）のよさを、こわすようなことはないか少し心配になった。考えを深める良い機会になった。
- ・ ブータンについては以前から興味があり、なかなか詳しいことを聞くチャンスがなかった。今回、様々の分野の方がブータンとの関わりを話されて益々興味を持ちました。特に荒川区の取り組みは画期的！頑張ってください。
- ・ 各パネリストのお話は、各々の分野からブータンや地域社会に関しての見方をいろいろ提供していて、とても興味深く拝聴しました。今日ここにきて良かったです。ありがとうございます。
- ・ 発表方法がそれぞれの持ち味を出している。手法も素晴らしい。価値観を共有できた様に思う。
（物質文明から精神文明への方向転換）
- ・ 一義的でないお話を聞いた。GNHやブータンの在り方に対する疑問点も聞けるとよかった。

- ・ ブータンからは内政における地方分権、外交においては大国にはさまれた小国としてのたくみな
かじ取りについて学ぶべきものが多いのではないかと思います。今日のセミナーでは、それらを
考える基礎概念について学習できました。
- ・ ブータンについての予備知識を教師海外研修で聞いていたがブータンに対して日本がどう関わる
か疑問を持っていた。自分の中である程度の答えが得られたので満足である。
- ・ 人間が求める最高位のものを目標とし、それに向かって生活しているのは他の国でも参考になる。
日本は海外協力・援助する場合も GNH を念頭において進めるべきである。
- ・ 日本が変化するためには「洋食から和食」に切り変える位との表現が良いと思った。

第3分科会

- ・ 先生たちのお話がとても今のお仕事に役に立ちます。そして、「母語」、「人権」・・・とは何か？
について再認識しました。ほんとうにありがとうございました。
- ・ うかがった内容の中で、自分の所属しているグループに生かしたいと思う内容があった。外国人
の子育てをしているお母さんが受け入れられている、安心してこれられると思える、日本人も外国
人もともに学ぶ居場所づくりをこれからもめざしたいと思います。
- ・ パネリスト 3 名の方の切り口がそれぞれで大変勉強になりました。
- ・ 母語とアイデンティティと子供の一生という観点から語学習得のメリットとリスクを考えるお話
を聞けました。
- ・ 日本の国際化が遅れていることが言われて久しいが、行政側が遅れている間に実績がどんどん進
んでしまっていることを、本日のお話から実感いたしました。「アイデンティティ・クライシス」
という言葉は初めて耳にいただきましたが、今後の活動において、初めてそれぞれのルーツを大切
にすることを教えつつ、自らも相手を大切にしていきたいと思います。母親こそが日本語修得の
基礎というのはその通りだと思います。
- ・ 現場のお話しをされ、どう変えていけるのか等、とても具体的な希望をもてるようなお話しだっ
たと思う。自分自身、今後さらにいろんな形でかかわっていきたいと思っているので、とても勇
気をもらえました。ありがとうございます。
- ・ 説明がよくまとめられていて、わかりやすかった。パネリストの方の話を項目別に分けて進める
という形もわかりやすかった。フロアとのディスカッション（質疑）の時間がもう少しあるとよ
かった。
- ・ 「国際化市民」の名前にふさわしいテーマ・内容と感じました。様々な先進事例についてもとて
も具体的なお話が聞けて良かったです。ただし、下記の点、大変残念でした。※家族愛＝母の愛、
ではありません。父親も含め、家族としての繋がりをもっと意識したいと感じます。
（ビルマは現在ミャンマーと呼ぶのが適当ではないでしょうか。）
- ・ 現場で活動を継続されているパネリストの方々のお考えや熱意を知ることができました。「異な
る」ことを「同じ」にしていくのではなくて、「異なる」ことを大切にして、アイデンティティを
形成していくことを大切にされている実践例をそれぞれの方から教えていただくことができまし
た。
- ・ パネリストの方々が話したことそれぞれがとても面白く、日本語を教えるということが必要とさ
れているだけではなく、心に寄り添い必要なことを考えていく必要があると強く思いました。
- ・ 午後の部（外国人親子）はわりと自分たちの身のまわりの話、身近な問題について積極的に取り

組んでいらっしゃる方々の話をきけて良かった。今後の自分の勉強にも活かしていきたい。

- ・ 元大久保小学校教諭の善元幸夫さんのお話は、とても感動するものが多かったです。

第4分科会

- ・ ワークショップで参加された皆さんと案を出し合いその場で外国人の方に評価して頂けたので。
- ・ 午前中の内容が具体的に理解がすすんだ。思ったより外国の人が知らない言葉が多かった。
- ・ 「わかる日本語」にして情報伝達することが、専門用語は別にしてもいかに難しいか改めて実感した。
- ・ 具体例を通したワークショップがとてもわかりやすく、情報を伝えることの難しさと大切さが実感できました。
- ・ ワークショップでは、グループの皆さんとチームワーク良く、早く仕上がり楽しかったです。
- ・ 外国人を連れてきて実際のワークショップを行ったこと。「わかる言葉」に直すとき、無理にすると却っておかしくなるので、(例、国民健康保険など)無理することはないと思う。
- ・ 自分ではこの位だとわかるのでは・・・と思っていた語彙がそうではないという事を知り、もっともっと勉強しなければと思いました。
- ・ 意外な言葉を外国籍の人は知らないことに驚いた。
- ・ 分かりやすい日本語を作る難しさを感じました。
- ・ 外国人にわかる日本語の範囲は個人差があるように思う。どこに基準をおくかが問題だと思います。
- ・ 行政の情報は、伝えなければいけないことが多いのに、どう伝えるか、どうやさしい日本語にするか、改めて難しいと実感しました。外国籍の方々のリアルな声は本当に大事だと思います。
- ・ 行政からの文書限定のワークショップでしたが、外国籍の方がわかる文章にすることの難しさを体験できました。日本人の感覚、わかるであろうという判断基準は、外国の方と大きな差があるのですね。
- ・ 評定者(外国人3人)の既に知っている単語表でもあればより良かった。

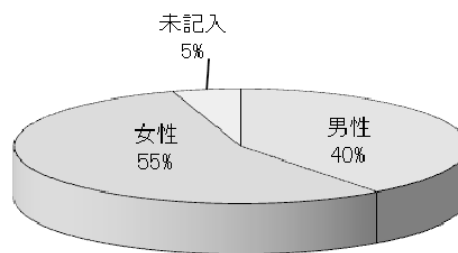
《その他の意見》

- ・ いろんなパネリストの様々な話が聞けて良かったです。キーワードを前に貼りだしていただいて、頭の整理ができました。自治体の取組みも知ることができて良かった。
- ・ フォーラム参加したことが初めてでした。またこういう機会に参加したいです。
- ・ コメンテータもさることながらファシリテータの役割も大きく、要約や次の話題への転換も上手で聴きやすかった。
- ・ 質問を途中で回収された方法は、非常に有効であったと思います。
- ・ シンポジウムをマスコミに取材していただき、シンポジウムの内容を多くの人に共有していただくように努めていってはどうか。

参加者について

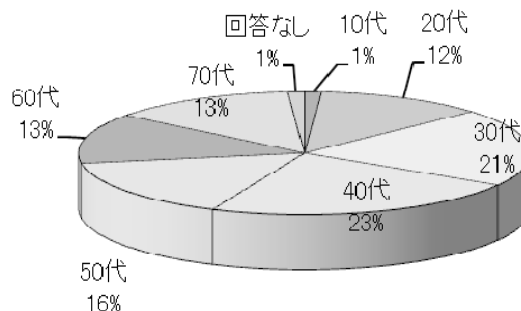
《性別》

男性	(33 名)
女性	(46 名)



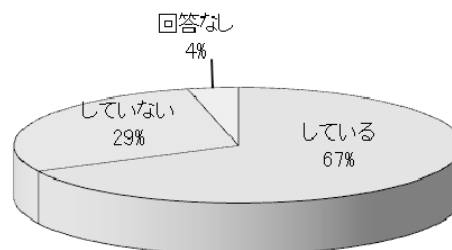
《年代別》

10 代	(1 名)
20 代	(10 名)
30 代	(17 名)
40 代	(19 名)
50 代	(13 名)
60 代	(11 名)
70 代	(11 名)



《国際交流・協力に関わる活動をしているか》

している	(56 名)
していない	(24 名)
回答なし	(3 名)



《団体名》

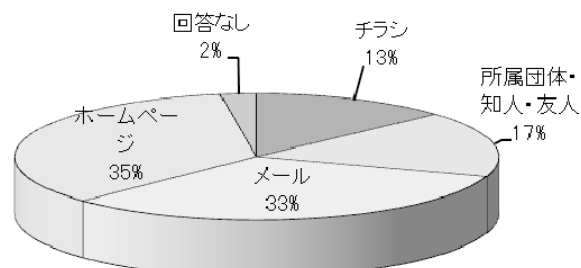
- ・区・市役所
- ・区・市国際交流協会
- ・大学のサークル
- ・NPO 法人 など

《主な活動内容》

- ・日本語ボランティア
- ・日本語教育・学習支援
- ・国際交流事業
- ・相談事業
- ・広報活動 など

《今回のフォーラムを何で知ったか》

チラシ	(11 名)
所属団体・知人等	(14 名)
メール	(27 名)
ホームページ	(29 名)
回答なし	(2 名)



平成 23 年 4 月発行

国際化市民フォーラム i n T O K Y O

編集・発行

東京都国際交流委員会

〒101-0021 東京都千代田区外神田 1-1-5

昌平橋ビル 3 F

電話 03-5294-6542

F A X 03-5294-6540

印 刷

社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会 事業局

